

授業科目	保健医療システム論		担当教員	○千葉 昌樹、大西 浩文、伊藤 新一郎	
英文科目名	Health Care System				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC101	共通科目群	1 年次・通年	必修	演習	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			

授業目的	わが国における保健医療行政の役割と仕組み、行政の基盤となる関係法規の歴史と現在を体系的に教授するとともに、福祉行政についても教授する。これらからの、国および北海道における保健医療福祉体制の構築過程の特徴、現状と課題、地域包括ケアを含む政策と地域活動の実際、さらに保健・医療・福祉の多職種連携の実際について教授する。
到達目標	1. 保健医療福祉行政の役割と仕組みと関係法規・制度について説明できる。 2. 社会・経済格差と健康格差の関連性について、その背景を踏まえて説明できる 3. 国および北海道における保健医療体制の構築過程の特徴について説明できる。 4. 北海道の地域包括ケアシステムと地域活動の実際から課題を明らかにできる 5. 地域疫学的調査の実際から、北海道の生活習慣病危険因子の特徴と予防について説明できる。 6. 福祉行政の実施体制と課題を説明できる。 7. 保健医療福祉システムの構築・推進に向けた地域における課題について、公衆衛生学、医療社会学的、地域福祉的観点も踏まえて考察できる。 8. 保健・医療・福祉における多職種連携の実際から、自職種の課題について考察できる。
テキスト	なし
参考書	国民衛生の動向（厚生統計協会）、国民の福祉の動向（厚生統計協会）、厚生労働省ホームページ、これからの保健医療福祉行政論 第3版（日本看護協会出版会）
評価方法・評価割合	千葉 50%：課題レポート（20%）、提出物（20%）、ディスカッション（10%） 大西 30%：提出物（20%）、ディスカッション（10%） 伊藤 20%：提出物（10%）、ディスカッション（10%）
評価基準・観点	評価項目の基準 課題レポート：テーマと記述内容の一貫性、全体の論理性、文章表現、私見の具体性等 提出物：課題と内容の一貫性、論理的構成、文章表現、考察等 ディスカッション：事前学習・授業内容を踏まえた内容、参加状況等
履修上の留意事項	1. 保健医療福祉に関する動向や法制度の成立などに関する情報を、新聞などのツールを活用して常時把握する。 2. レポート・課題のテーマ、提出方法は科目のガイダンス時、及び各担当教員の第1回目に説明する。 千葉：授業は基本的に対面で実施します。 大西：遠隔授業 伊藤：対面授業

回数	担当		
1	千葉 昌樹	学習の主題	保健医療福祉行政の歴史と変遷
		授業内容	1. 保健医療福祉行政の理念と目標 2. 保健医療福祉行政の軌跡とその背景
		授業形態	この授業は基本的に対面で実施します。
		事前・事後学習	事前学習：参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1 時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1 時間）
2	千葉 昌樹	学習の主題	保健医療行政の役割と仕組み
		授業内容	1. 保健医療福祉活動を推進する行政の仕組みと機能 2. 保健医療福祉財政の仕組み 3. 公衆衛生行政の仕組みと機能
		授業形態	この授業は基本的に対面で実施します。
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1 時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1 時間）

3	千葉 昌樹	学習の主題	保健医療行政に関する関係法規（１）
		授業内容	1. 母子保健、高齢者保健福祉、障がい者保健福祉 2. 医療保険、介護保険、年金
		授業形態	この授業は基本的に対面で実施します。
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1 時間）、 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して自己の考えを整理し課題を明確にする。（1 時間）
4	千葉 昌樹	学習の主題	保健医療行政に関する関係法規（2）
		授業内容	1. DV 防止法 ・ 子育て支援法等 2. 難病対策、感染症対策、災害対策
		授業形態	この授業は基本的に対面で実施します。
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1 時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。（1 時間）
5	千葉 昌樹	学習の主題	社会・経済格差と健康格差
		授業内容	1. 貧困・格差の社会経済的定義と現状の動向 2. 社会経済的要因と健康の関係 3. 健康格差に関する我が国の保健医療福祉政策
		授業形態	この授業は基本的に対面で実施します。
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1 時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。（1 時間）
6	千葉 昌樹	学習の主題	保健医療体制の構築過程
		授業内容	1. 保健医療体制の構築過程 2. 国・北海道・市町村における保健医療体制の構築過程の現状と課題
		授業形態	この授業は基本的に対面で実施します。
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1 時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。（1 時間）
7	千葉 昌樹	学習の主題	保健医療システムの構築・推進に向けた地域における課題
		授業内容	保健医療システムの構築・推進に向けた地域における課題の分析方法と実際
		授業形態	この授業は基本的に対面で実施します。
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1 時間） 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。（1 時間）
8	千葉 昌樹	学習の主題	北海道の地域包括ケアシステムと地域活動の実際
		授業内容	1. 国内・北海道内での地域活動の実践事例 現状と課題 2. 2030 年、2040 年、2054 年問題と地域包括ケアシステム
		授業形態	この授業は基本的に対面で実施します。
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、参考書、多様な情報源を活用し予習を行う。（1 時間）、 事後学習：授業内容を復習し、文献を活用して、自己の考えを整理し課題を明確にする。（1 時間）
9	大西 浩文	学習の主題	地域疫学研究による生活習慣病危険因子の解明（1）
		授業内容	地域住民コホート研究の実際
		授業形態	遠隔で実施。
		事前・事後学習	事前学習：コホート研究の特徴について調べる。（1 時間） 事後学習：講義内容をまとめる。（1 時間）
10	大西 浩文	学習の主題	地域疫学研究による生活習慣病危険因子の解明（2）
		授業内容	地域住民コホート研究により明らかとなった生活習慣病危険因子
		授業形態	遠隔で実施。
		事前・事後学習	事前学習：生活習慣病の危険因子について調べる。（1 時間） 事後学習：講義内容をまとめる。（1 時間）

11	大西 浩文	学習の主題	多職種連携による地域での重症化予防の実際（1）
		授業内容	糖尿病性腎症重症化予防対策の考え方と実際
		授業形態	遠隔で実施。
		事前・事後学習	事前学習：糖尿病性腎症重症化予防プログラムに目を通す。（1 時間） 事後学習：講義内容をまとめる。（1 時間）
12	大西 浩文	学習の主題	多職種連携による地域での重要化予防の実際（2）
		授業内容	ICT を活用した多職種連携の地域連携クリティカルパスの実際
		授業形態	遠隔で実施。
		事前・事後学習	事前学習：地域連携クリティカルパスについて調べる。（1 時間） 事後学習：講義内容をまとめる。（1 時間）
13	大西 浩文	学習の主題	食と健康に関する地域での多職種連携の取り組み
		授業内容	食品中の機能性成分の効果検証と地域での効果的な摂取方法の普及啓発
		授業形態	遠隔で実施。
		事前・事後学習	事前学習：食と健康に関する地域での取り組みについて調べる。（1 時間） 事後学習：提出物（課題）の作成。（2 時間）
14	伊藤 新一郎	学習の主題	福祉行政の実施体制と課題
		授業内容	福祉行政の法的根拠と実施体制及び課題について学ぶ。
		授業形態	対面で実施。
		事前・事後学習	事前学習：厚生労働省 HP 内の関係箇所の内容を確認しておくこと。（1 時間） 事後学習：講義内容をまとめる。（1 時間）
15	伊藤 新一郎	学習の主題	地域における保健医療と福祉の連携および包括的支援の現状と課題
		授業内容	地域における保健医療と福祉の連携および包括的支援の現状と今後の課題について学ぶ。
		授業形態	対面で実施。
		事前・事後学習	事前学習：厚生労働省 HP 内の関係箇所の内容を確認しておくこと。（1 時間） 事後学習：提出物（課題）の作成。（2 時間）

授業科目	チーム医療と組織管理		担当教員	○岡本 智子、千葉 昌樹、久保 匠、 團塚 恵子	
英文科目名	Medical Team and Organizational Management				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC102	共通科目群	1 年次・後期	必修	講義	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	近年、医療分野では複雑・高度化した医学的管理のもとでケアの質的向上が求められ関係職種間のチーム連携および対象者中心の多様な組織づくりを進める能力が求められている。 また、医療分野だけではなく保健分野においても、地域における効果的なケアシステム構築が推進され、関係機関・職種だけでなく、その地域に暮らす住民が参加する組織づくりが不可欠である。そこで、本科目では、チーム医療およびチームマネジメントの基礎知識を、チーム力を高めるために必要な技術について教授する。そして様々な場面におけるチームの事例を通して、看護・栄養の組織管理の実際と特徴、課題について検討する。さらに、住民主体の保健活動を促進するための組織づくりと展開方法の基礎理論、住民と組織間等の連携・協働や地域ケアシステムの構築についても教授する。このことからひとつひとつのチームマネジメントを通して職種間の連携や協働のあり方が、地域につながり、医療と保健の効果的なケアの質的向上に働きかけられることの課題について検討する。				
到達目標	1. チーム医療の定義と理念を説明できる。 2. チーム医療とチームマネジメントの関係、保健医療の背景と重要性を説明できる。 3. チームマネジメントの原則と必要な技術を説明できる。 4. 病院（施設）のチーム機能に応じたそれぞれのチームマネジメントの特徴を説明できる。 5. 医療施設における看護・栄養の各部門の組織的特徴と管理・運営方法、課題について説明できる。 6. 看護・栄養の各部門のマネジメントと他部門との連携の実際と課題について説明できる。 7. 地域における保健活動を促進するための組織を住民参画で創ることの重要性を説明できる。 8. 組織活動の特徴とその展開方法を説明できる。 9. 住民・関係職種・機関との連携・協働のあり方と、地域ケアシステムの構築の特徴を説明できる。				
テキスト	なし				
参考書	篠田道子 「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」医学書院 小藺真知子「医療・福祉現場のコミュニケーション」（三輪書店） 井部俊子監修勝原裕美子編集看護管理学習テキスト第3版第4巻「組織管理論」（日本看護協会出版会） ステイーブンP.ロビンズ他「新版組織行動のマネジメントー入門から実践へ」（ダイヤモンド社） 細田満和子「チーム医療とは何か」第2版（日本看護協会出版会） 星旦二「地域保健スタッフのための「住民グループ」のつくり方・育て方」（医学書院） 岩永俊博「地域づくり型保健活動の考え方と進め方」（医学書院） 上野千鶴子他「ニーズ中心の福祉社会へ当事者主権の次世代福祉戦略 シリーズケアをひらく」（医学書院） 中西正司他「当事者主権」（岩波書店） 安梅勅江「エンパワメントのケア科学 当事者主体チームワーク ケアの技術」（医歯薬出版株式会社） 安梅勅江「コミュニティエンパワメントの技法 当事者主体のあたらしいシステムづくり」（医歯薬出版株式会社） 鎌田華乃子「コミュニティ・オーガナイズング」（英治出版） 今村晴彦他「コミュニティのちから 遠慮しがちなソーシャル・キャピタルの発見」（慶應義塾大学出版会） 古川久敬「集団とリーダーシップ」（大日本図書） 中村陽吉「集団の心理」（大日本図書）				
評価方法・評価割合	岡本（40％）：課題レポート（12％）、提出物（20％）、授業時のパフォーマンス（8％） 千葉（30％）：課題レポート（10％）、提出物（10％）、ディスカッション（10％） 久保（20％）：提出物（10％）、ディスカッション（10％） 團塚（10％）：授業時のパフォーマンス（10％）				
評価基準・観点	課題レポート：記述内容が到達目標のテーマに一致したものか、また全体の論理性、文章表現、私見の具体性等を評価する。 提出物：課題の提出状況、課題と内容の一貫性、私見が記載されているかを評価する。 パフォーマンス：参加態度、意見の内容等を評価する。 ＊評価基準の詳細はガイダンス時に説明します。 久保：3回の授業への積極性、提出物で評価する。				

履修上の留意事項		岡本：対面（1.2 講日連続）4.5.6 講義日は遠隔で週1で行う（自身の職場で学びを実践してくるため） 千葉：対面（12.15 講目）遠隔（13.14 講目）で行う。 久保：オンラインで実施。 團塚：オンラインで実施。	
回数	担当		
1	岡本 智子	学習の主題	チーム医療の理念とチームマネジメントとの関係
		授業内容	ガイダンス 1. チーム医療の定義と理念 2. 保健医療におけるチーム医療の背景 3. チーム医療とチームマネジメントの関係
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：シラバスに目を通し授業の流れを把握してくる（1時間）。 事後：授業内容をもとに整理をしてくる（2時間）。
2	岡本 智子	学習の主題	チームマネジメントの基礎知識（その1）
		授業内容	チームマネジメントとは 求められる背景と活用について 1. コンサルテーション型チームのマネジメント 2. 栄養護部門のマネジメント 3. 他部門との連携
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：テキストもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、違いや特徴を整理する（2時間）。
3	岡本 智子	学習の主題	チームマネジメントの基礎知識（その2）
		授業内容	リーダーシップとメンバーシップについて（医療・福祉分野）
		授業形態	遠隔
		事前・事後学習	事前：テキストもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、リーダーシップの違いや特徴を整理する（2時間）
4	岡本 智子	学習の主題	チームマネジメントを高める医療コミュニケーションの技術（その1）
		授業内容	医療コミュニケーション技術（スキル）について
		授業形態	遠隔
		事前・事後学習	事前：テキストもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、チームマネジメントを向上させる技術（スキル）について整理する（2時間）。
5	岡本 智子	学習の主題	チームマネジメントを高める医療コミュニケーションの技術（その2）
		授業内容	カンファレンス・ファシリテーション技術（スキル）について
		授業形態	遠隔
		事前・事後学習	事前：テキストもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、チームマネジメントを向上させる技術（スキル）について整理する（2時間）。
6	岡本 智子	学習の主題	病院（施設）・チームの機能に応じたチームマネジメント
		授業内容	災害時における（保健・医療・福祉）チームマネジメント
		授業形態	遠隔
		事前・事後学習	事前：テキストもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、災害時におけるチームマネジメントをまとめる。（2時間）。
7	久保 匠	学習の主題	保健医療×ソーシャルインパクト
		授業内容	保健医療分野における社会課題を解決する主体としてスタートアップ、NPO 等、様々な主体がいることを学びます。また、ロジックモデルを通じて、社会課題を定義、解決に向けた道筋のデザインを学びます。
		授業形態	遠隔。講義・ワーク
		事前・事後学習	事前：予習(1時間) 事後：振り返り(30分)

8	久保 匠	学習の主題	保健医療×ソーシャルビジネス
		授業内容	▼事業づくり 事業を通じて保健医療分野の社会課題を解決する 「ソーシャルビジネス」の概要、事例、事業づくりのポイント。 ▼資金調達 保健・医療分野の社会課題を解決する際に必要な資金調達の方法や事例。 (寄付、会費、助成金、委託金、事業収入等)
		授業形態	遠隔。講義・ワーク
		事前・事後学習	事前：予習(1時間) 事後：振り返り(30分)
9	久保 匠	学習の主題	ケーススタディを活用した実践演習
		授業内容	医療・福祉分野のソーシャルビジネス事業者の発展戦略の立案。 (事業づくり、資金調達の戦略)
		授業形態	遠隔。ケーススタディを活用した実践演習
		事前・事後学習	事前：予習(1時間) 事後：振り返り(30分)
10	團塚 恵子	学習の主題	医療施設における看護部門の組織管理
		授業内容	1. 組織デザイン 2. 組織の意思決定 3. チーム医療と連携
		授業形態	遠隔。
		事前・事後学習	事前：参考書をもとに予習をする(1時間)。 事後：授業内容を復習する(2時間)。
11	團塚 恵子	学習の主題	組織マネジメントの実際と課題
		授業内容	1. 看護部門のマネジメント 2. 他部門との連携 3. 専門職能団体の活用
		授業形態	遠隔。
		事前・事後学習	事前：参考書をもとに予習をする(1時間)。 事後：授業内容を復習する(2時間)。
12	千葉 昌樹	学習の主題	住民の力量形成と地域づくり
		授業内容	1. 住民参画 2. 住民参加
		授業形態	対面。
		事前・事後学習	事前：参考書をもとに予習をする(1時間)。 事後：授業内容をもとに、住民参加の重要性とグループ活動の特徴をまとめる(2時間)。
13	千葉 昌樹	学習の主題	住民の力量形成とグループ活動
		授業内容	1. グループの種類とグループの形成 2. 集団の特性・グループ・ダイナミクス
		授業形態	遠隔。
		事前・事後学習	事前：参考書をもとに予習をする(1時間)。 事後：授業内容をもとに、住民参加の重要性とグループ活動の特徴をまとめる(1時間)。
14	千葉 昌樹	学習の主題	地域の健康問題の組織的な解決
		授業内容	1. 組織の特徴 2. 地域組織活動の展開 3. ソーシャル・キャピタルの力 4. コミュニティエンパワメント
		授業形態	遠隔。
		事前・事後学習	事前：参考書をもとに予習をする(1時間)。 事後：授業内容をもとに、地域組織活動の特徴をまとめる(1時間)。

15	千葉 昌樹	学習の主題	地域ケアシステムの構築
		授業内容	1. 地域ケアシステムとその構築のプロセス 2. 住民・関係職種・機関との連携・協働と地域ケアシステムの構築 3. 実際の活動事例の分析
		授業形態	対面。
		事前・事後学習	事前：参考書をもとに予習をする（1時間）。 事後：授業内容をもとに、地域ケアシステムの構築と専門職の役割をまとめる（2時間）。

授業科目	研究法概説		担当教員	服部 ユカリ	
英文科目名	Introduction to Research Methods				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC103	共通科目群	1 年次・前期	必修	講義	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○			○	

授業目的	保健医療分野における看護学・栄養学に係る研究の意義・目的を明らかにし、量的・質的研究方法の種類と特徴、研究のプロセスを解説する。具体的には研究テーマの明確化、文献検索の方法、文献の批判的検討、研究デザインの種類と特徴、分析方法等、研究に必要な論理的思考や研究の基本となる知識を概説する。研究計画書の作成過程とその基本についても講義する。また、研究の倫理指針、特に保健医療分野における人を対象とする研究において遵守すべき点について教授する。
到達目標	1. 保健医療分野における看護学・栄養学に係る研究の意義・目的を説明できる。 2. Clinical Question から Research Question への精練の必要性を説明できる。 3. 量的・質的研究方法の代表的研究デザインの種類と特徴、分析方法について説明できる。 4. 研究に必要な文献検索ができる。 5. 保健医療分野およびその関連領域の文献の批判的検討ができる。 6. 研究計画書に必要な要件について説明できる。 7. 研究の倫理指針、および保健医療学分野の研究において遵守すべき倫理について説明できる。
テキスト	近藤克則「研究の育て方、2018」（医学書院）
参考書	井下千以子「思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版、2019」（慶應義塾大学出版会） 日本病態栄養学会編：コメディカルのための論文の書き方の基礎知識、メディカルレビュー社 Bailey D.M., 朝倉隆司監訳：保健・医療のための研究法入門－発想から発表まで－、協同医書出版社 日本栄養改善学会監修：論文の書き方・まとめ方、第一出版 近藤潤子監訳「看護研究 原理と方法 第2版、2010」（医学書院） 黒田裕子他監訳「バーンズ&グローブ 看護研究入門、第7版、2015」（エルゼビア） 中木高夫他「質的看護研究の基礎づけ、2018」（看護の科学社）
評価方法・評価割合	発表（50％）、討議への参加（20％）、課題レポート（30％）
評価基準・観点	1) 発表：発表用資料の構成・表現スタイル、内容、発表姿勢、質疑応答の適切性 2) 討議への参加：ディスカッションへの参加状況、討議姿勢 3) 課題レポート：「研究プロセスの概要および自身の研究の段階と課題」について、テーマと記述の一貫性、全体の論理性、文章表現、自己分析等
履修上の留意事項	主題について事前に学修し発表する方法で行います。自己の修得状況を評価・確認し、各自に必要な基礎的能力を修得できるよう留意してください。 原則、対面で実施する。状況と講義内容によっては、遠隔実施に変更する場合がある。

回数	担当		
1	服部 ユカリ	学習の主題	研究とは何か
		授業内容	研究と研究ではないものとの違い、研究の概念と意義
		授業形態	遠隔
		事前・事後学習	事前：研究の定義についてテキストや資料を用いて予習する（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
2	服部 ユカリ	学習の主題	良い研究とは
		授業内容	良い研究とはどのような研究か
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：良い研究についてテキストや資料を用いて予習する（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
3	服部 ユカリ	学習の主題	Research Question の精練
		授業内容	Clinical Question から Research Question に精練することの意義
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：Research Question についてテキストや資料を用いて予習する（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。

4	服部 ユカリ	学習の主題	文献検討の目的と方法
		授業内容	文献検討の目的と文献検索方法
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：文献検討についてテキストや資料を用いて予習する（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
5	服部 ユカリ	学習の主題	研究デザイン・量的研究
		授業内容	保健医療学系の研究で用いられる研究デザインのうち、量的研究の方法と特徴について
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：量的研究についてテキストや資料を用いて予習する（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
6	服部 ユカリ	学習の主題	研究デザイン・質的研究
		授業内容	保健医療学系の研究で用いられる研究デザインのうち、質的研究の方法と特徴について
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：質的研究についてテキストや資料を用いて予習する（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
7	服部 ユカリ	学習の主題	研究の精度とトライアングレーション
		授業内容	研究の精度を高めるための方法としてのミックスメソッドやトライアングレーションの考え方
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：トライアングレーションについてテキストや資料を用いて予習する（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
8	服部 ユカリ	学習の主題	データ収集方法とデータ分析の基礎
		授業内容	研究テーマに相応しい対象の選択およびサンプルサイズ、データ収集方法、データ分析方法の概要、結果および考察について
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：対象選択方法および必要対象者数についてテキストや資料を用いて予習する（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
9	服部 ユカリ	学習の主題	研究倫理
		授業内容	人を対象とした研究倫理指針、各自の関連学会の倫理指針をととした研究倫理のあり方
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：人を対象とした研究倫理指針と各自の関連学会の倫理指針を用いて予習する（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
10	服部 ユカリ	学習の主題	研究倫理と研究計画
		授業内容	研究倫理指針に沿った研究計画書の記載の演習
		授業形態	遠隔
		事前・事後学習	事前：量的研究と質的研究のデータ分析方法および考察の目的についてテキストや資料を用いて予習する（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
11	服部 ユカリ	学習の主題	研究計画書の書き方
		授業内容	研究計画に必要な事項（データ収集方法、分析方法、と考察と計画書の書き方
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：研究計画書についてテキストや資料を用いて予習する（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。
12	服部 ユカリ	学習の主題	論文の書き方と読み方（クリティークの方法）
		授業内容	論文に記述すべき内容と論文のクリティーク基準
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：量的研究と質的研究の論文に載せるべき内容およびクリティークの基準についてテキストや資料を用いて予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（1時間）。

13	服部 ユカリ	学習の主題	量的研究論文のクリティーク
		授業内容	自身の研究テーマに関連する量的研究の原著論文について概要とクリティーク結果をプレゼンテーションし、討議をととして研究について理解を深める
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：自身の研究テーマに関連する量的研究の原著論文を選定し 1 週間前までに受講者と教員に共有する。選定した論文の概要をまとめクリティークする (2 時間)。 事後：授業内容を整理し記録する (1 時間)。
14	服部 ユカリ	学習の主題	質的研究論文のクリティーク
		授業内容	自身の研究テーマに関連する質的研究の原著論文を選定した論文の概要とクリティーク結果をプレゼンテーションし、討議をととして研究について理解を深める
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：自身の研究テーマに関連する質的研究の原著論文を選定し 1 週間前までに受講者と教員に共有する。選定した論文の概要をまとめクリティークする (2 時間)。 事後：授業内容を整理し記録する (1 時間)。
15	服部 ユカリ	学習の主題	まとめ
		授業内容	これまでの学習内容を基に研究のプロセスにおいて重要なことおよび自身の課題について発表し、討論することをととして研究についての理解を深める
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前：これまでの学習内容を基に研究のプロセスにおいて重要なことおよび自身の課題についてまとめる (1 時間)。 事後：これまでの授業内容を復習し整理し、「研究プロセスの概要および自身の研究の段階と課題」のレポート作成 (2 時間)。

授業科目	保健医療と倫理		担当教員	○大日向 輝美、時野 隆至、旗手 俊彦	
英文科目名	Health Care and Ethics				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC104	共通科目群	1 年次・後期	選択	講義	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○			○	

授業目的	保健医療における倫理的基盤、生命倫理・医療倫理・臨床倫理に関する学修を前提に、専門職倫理の原則と重要概念、国際的宣言や医師・看護職・管理栄養士等の倫理綱領を学修し、保健医療専門職に求められる倫理の本質と課題について考察する。加えて、研究遂行に必要なとなる研究倫理、倫理審査等への対応について教授する。
到達目標	1. 人間社会における倫理、保健医療における倫理とは何か、自己の考えを表明できる。 2. 生命倫理・臨床倫理・医療倫理の異同とそれらに関わる諸概念と基礎理論、倫理的な課題を説明できる。 3. 保健医療に関わる現代的・典型的な倫理問題に関して、授業での学びをもとに私見を述べるができる。 4. 保健医療専門職に適用される倫理指針や倫理綱領の意義や変遷を学修し、それらの活用方法を提案できる。 5. 研究倫理に関する基本事項を説明できる。
テキスト	なし
参考書	服部健二他編著「医療倫理学の ABC」第 4 版（メヂカルフレンド社） 平山正実、朝倉輝一編著「ケアの生命倫理」（日本評論社） 宮坂道夫「医療倫理学の方法」（医学書院） 丸山マサ美編著「医療倫理学」（中央法規） 浅野篤、小西恵美子他編「倫理的に考える医療の論点」（日本看護協会出版会） 浅井篤他編「少子高齢社会の『幸福』と『正義』—倫理的に考える『医療の論点』」（日本看護協会出版会） トム・L・ビーチャム他（永安幸正他監訳）「生命倫理学」（成文堂） トム・L・ビーチャム（立木教夫、永安幸正監訳）「生命医学倫理のフロンティア」（行人社） 大谷藤郎「医の倫理と人権—共に生きる社会へ」（医療文化社） ダニエル・F・チャンブリス（浅野祐子訳）「ケアの向こう側」（日本看護協会出版会） アン・J・デービス（小西恵美子監訳）「看護倫理を教える・学ぶ」（日本看護協会出版会） サラ・T・フライ（片田範子他訳）「看護実践の倫理」第 4 版（日本看護協会出版会） 玉腰暁子、武藤香織「医療現場における調査研究倫理ハンドブック」（医学書院） その他、授業中に紹介する。
評価方法・評価割合	大日向・時野（50％）：プレゼンテーション、ディスカッション（30％）、レポート（20％） 旗 手（50％）：授業の予習・参加態度（20％）、レポート（30％）
評価基準・観点	プレゼンテーション：テーマに関する文献情報を収集し、自らの意見を含めて発表する。プレゼンテーションの準備と内容、質疑応答等を含めて評価する。 ディスカッション：発言内容・参加姿勢から評価する。 課 題 レ ポ ー ト：提示されたテーマに関して論述する。問題設定・論理構成・表現等から評価する。 授業の予習・参加態度：授業テーマに関する調べ学習内容、プレゼンテーション、ディスカッション等から評価する。
履修上の留意事項	・下記のスケジュールは学習の進捗状況等により調整・変更する場合がある。 ・授業では討議を行うため、積極的に参画すること。また、事前学習への取り組みは当然であるが、事後に授業での学びを振り返り、理解を深める姿勢が望まれる。 ・社会人学生の受講の便を考慮し、ZOOM を用いた遠隔授業とする。留意事項はガイダンスで説明する。

回数	担当		
1	大日向 輝美	学習の主題	ガイダンス、人間社会における倫理、保健医療における倫理
		授業内容	授業概要と進め方、倫理の概念、保健医療専門職の役割・責任を学ぶ
		授業形態	講義、ディスカッション。遠隔。
		事前・事後学習	事前（1 時間）：シラバスの熟読。事前配布資料の閲読 事後（1.5 時間）：課題レポートの作成
2	旗手 俊彦	学習の主題	プロフェッショナリズム
		授業内容	医師を中心とした職業倫理を学ぶ
		授業形態	講義、ディスカッション。遠隔。
		事前・事後学習	事前（1.5 時間）：事前配布資料の閲読、課題レポートの作成 事後（1.5 時間）：配布資料の復習、課題レポートの再作成

3	旗手 俊彦	学習の主題	臨床倫理
		授業内容	臨床倫理のメソッド、臨床倫理コンサルティングの実際を学ぶ
		授業形態	講義、ディスカッション。遠隔。
		事前・事後学習	事前（1.5 時間）：事前配布資料の閲読、課題レポートの作成 事後（1.5 時間）：配布資料の復習、課題レポートの再作成
4	旗手 俊彦	学習の主題	研究倫理
		授業内容	研究倫理に関する法令、ガイドラインを学ぶ
		授業形態	講義、ディスカッション。遠隔。
		事前・事後学習	事前（1.5 時間）：事前配布資料の閲読、課題レポートの作成 事後（1.5 時間）：配布資料の復習、課題レポートの再作成
5	旗手 俊彦	学習の主題	保健医療と倫理
		授業内容	判断能力の低下した患者への対応や医療・福祉連携、地域連携をめぐる倫理問題の現状と解決方法を学ぶ
		授業形態	講義、ディスカッション。遠隔。
		事前・事後学習	事前（1.5 時間）：事前配布資料の閲読、課題レポートの作成 事後（1.5 時間）：配布資料の復習、課題レポートの再作成
6	大日向 輝美	学習の主題	倫理の理論と方法
		授業内容	原則の倫理、ケアリングの倫理、徳の倫理等を学ぶ
		授業形態	プレゼンテーション、ディスカッション。遠隔。
		事前・事後学習	事前（1.5 時間）：提示課題への取り組み 事後（1.5 時間）：課題レポートの作成
7	大日向 輝美	学習の主題	保健医療専門職に求められる倫理と倫理指針・綱領
		授業内容	専門職倫理の起源と変遷、倫理指針・綱領の意義と問題を学ぶ
		授業形態	プレゼンテーション、ディスカッション。遠隔。
		事前・事後学習	事前（1.5 時間）：提示課題への取り組み 事後（1.5 時間）課題レポートの作成
8	時野 隆至	学習の主題	研究倫理審査の意義と方法
		授業内容	倫理審査の意義、倫理審査の内容等を学ぶ
		授業形態	講義。遠隔。
		事前・事後学習	事前（0.5 時間）：事前配布資料の閲読

授業科目	統計学		担当教員	三瀬 敬治	
英文科目名	Statistics				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC105	共通科目群	1 年次・前期	選択	演習	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○			○	

授業目的	保健医療系研究法の基礎として、集団を対象とした問題について、因果関係解明とエビデンス構築の方法、問題解決に必要なデータ収集・分析に関わる統計的技法を学び、エビデンスに基づく評価研究や量的研究の成果を批判的に分析、検討する能力を培う。
到達目標	1. 記述統計の基礎知識を理解できる。 2. 推測統計の基礎知識を理解できる。 3. 統計的分析法の基礎知識を理解できる。 4. 多変量解析の基礎知識を理解できる。 5. 統計処理専用ソフトと Excel との扱いの違いを理解した上で操作できる。 6. 統計処理専用ソフトで分析した結果を説明できる。
テキスト	講義資料を担当教員が作成して、前もって配付する。
参考書	1. 「4Steps エクセル統計 第 5 版」(星雲社) 2. 対馬栄輝「SPSS で学ぶ医療系データ解析第 2 版」(東京図書) 3. 対馬栄輝「SPSS で学ぶ医療系多変量データ解析第 2 版」(東京図書) 4. 神田善伸「EZR でやさしく学ぶ統計学 改訂 3 版」(中外医学社) 5. 大木秀一「看護統計学入門第 2 版」(医歯薬出版)
評価方法・評価割合	レポート 100%
評価基準・観点	目標の到達状況を複数回のレポートにより評価する。知識の基本的な理解(目標 1~3)、Excel と統計処理ソフト SPSS および EZR の操作の正確さ(目標 4,5)、分析結果を読み取る力(目標 6)を問う課題に対する解答の採点結果により測る。
履修上の留意事項	授業で習った内容が十分な理解となるように復習し、学んだデータ分析を正しく実行できるように統計ソフトの操作を繰り返し練習すること。なお、SPSS は大学院学生研究室の PC で使用することができるが、高価であるため、受講生本人の PC には無料ソフトであるが世界的に信頼性が高い EZR をインストールさせ、基本操作から指導する。特に遠隔授業の場合は EZR を中心に講義と演習を行う。 原則対面。場合によって遠隔で実施する。

回数	担当		
1	三瀬 敬治	学習の主題	統計学について
		授業内容	本科目の構成と指針、そして各回の位置づけを説明する。続いて、統計学の歴史、目的と有用性、データ分析法の種類などを解説する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。
2	三瀬 敬治	学習の主題	SPSS と EZR について
		授業内容	統計ソフト SPSS と EZR を紹介し、使い方を解説し、データの読み込み・入力・保存、加工・変換のやり方を Excel と比較しながら指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。
3	三瀬 敬治	学習の主題	記述統計について
		授業内容	尺度、記述統計量について解説し、統計ソフトを使用した記述統計量の算出、度数分布表の作成、グラフの表示のやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する (0.5 時間)。 事後：講義内容を復習する (0.5 時間)。

4	三瀬 敬治	学習の主題	推測統計について
		授業内容	母集団と標本、母数、正規分布について説明し、区間推定と仮説検定について解説する。また、統計ソフトを使用した区間推定の求め方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
5	三瀬 敬治	学習の主題	分割表の作成
		授業内容	統計ソフトを使用した調査データから、統計処理の最も基本である、分割表（クロス集計表）を作成するやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
6	三瀬 敬治	学習の主題	分割表の検定
		授業内容	独立性の検定（ χ^2 検定）について解説し、統計ソフトを使用したその検定のやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
7	三瀬 敬治	学習の主題	平均の差の検定
		授業内容	平均の差の検定（t 検定）について解説し、統計ソフトを使用したその検定のやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
8	三瀬 敬治	学習の主題	分散分析（1）
		授業内容	一元配置の分散分析について解説し、統計ソフトを使用したその分析のやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
9	三瀬 敬治	学習の主題	分散分析（2）
		授業内容	二元配置の分散分析について解説し、統計ソフトを使用したその分析のやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
10	三瀬 敬治	学習の主題	多重比較
		授業内容	多重比較について解説し、統計ソフトを使用した多重比較のやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
11	三瀬 敬治	学習の主題	ノンパラメトリック検定
		授業内容	パラメトリックとノンパラメトリックの違いについて概説する。また、ウィルコクソンの符号付順位検定とマンホイットニーの U 検定について解説し、統計ソフトを使用したそれらの分析のやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。

12	三瀬 敬治	学習の主題	相関分析
		授業内容	相関分析について解説し、統計ソフトを使用したその分析のやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
13	三瀬 敬治	学習の主題	回帰分析（1）
		授業内容	単回帰・重回帰分析について解説し、統計ソフトを使用したそれらの分析のやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
14	三瀬 敬治	学習の主題	回帰分析（2）
		授業内容	ロジスティック回帰分析について解説し、SPSS を使用したその分析のやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
15	三瀬 敬治	学習の主題	因子分析
		授業内容	因子分析について解説し、SPSS を使用したその分析のやり方を指導する。
		授業形態	原則対面。場合によって遠隔で実施する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。 事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。

授業科目	疫学と保健統計		担当教員	○齋藤 健、安念 保昌	
英文科目名	Epidemiology and Health Statistics				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC106	共通科目群	1 年次・後期	選択	演習	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○			○	

授業目的	保健医療分野における疫学と保健統計、社会調査の各概念、調査方法の目的と特徴等の基本を整理し、各研究方法や解析方法について講義と演習を通じて習得する。
到達目標	1. 人口動態統計や人口静態統計のデータ内容を理解し、現状と課題、将来の展望について説明できる。 2. 保健医療分野における疫学調査の意義・目的、方法、データの統計処理、解析方法と特徴等、さらに質問紙の作成法を理解し、実際のデータを用いた解析を展開できる。 3. 保健医療研究における看護および健康・栄養データに適した疫学研究方法や解析方法を選択できる。 4. 保健医療に関わる疫学研究論文を検索・収集し、論文で用いられる方法、結果とその評価について資料を作成し、発表できる。 5. AI の技法を使いながら、保健医療分野におけるデータサイエンスの入り口に立つことを目指す。
テキスト	特に指定しない。授業で資料を配布する。
参考書	毎回の授業で指示する。
評価方法・評価割合	齋藤（80％）：プレゼンテーション（25％）、課題レポート（40％）、討議への参加（15％） 安念（20％）：課題レポート（10％）、提出物（10％）
評価基準・観点	齋藤 プレゼンテーション：情報収集・分析の妥当性、発表資料の完成度、発表内容の論理性、私見の具体性 課題レポート：提出状況及び内容の一貫性、論理性、私見の具体性 討議への参加：提示内容の具体性、質疑応答の論理性、討論姿勢 安念 講義・演習を通して保健統計の基礎的なリテラシーの獲得
履修上の留意事項	主体的な姿勢で授業に臨むこと。 齋藤：遠隔授業で実施する。 安念：対面・遠隔のハイブリッドで実施する。

回数	担当		
1	安念	学習の主題	研究テーマの確立
		授業内容	問題点を明確化するために、先行研究・事例・事象を系列化する Consensus, Genspark, deepsearch, NotebookLM などを活用する。 AI ツールを用いた文献レビューの効率化、AI の限界と注意点（幻覚、引用の確認必要性等）、各 AI ツールの特徴比較表の作成、使用する AI ツールのアカウント作成手順の説明
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前：指定する AI ツールの利用登録 事後：特定テーマでの文献マッピング
2	安念	学習の主題	データ収集
		授業内容	面接音源文字起こし、データの整理、関連文献を見つけ、データの可視化、筋道を立てる。Gladia, Mapify, NoLang, Notion, EndNote などを活用する。 AI を用いた英語論文校正・推敲。研究倫理と AI 利用のガイドライン、剽窃チェックツールの使用方法、あまねく存在するデータの採集、データの種類の適切なツール選択ガイドライン、プライバシーとデータセキュリティへの配慮
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前：収集予定データのリスト作成 事後：データ整理演習
3	安念	学習の主題	データ分析
		授業内容	多変量解析の大まかな流れをつかむ。Google AI Studio, Google Colabo, ChatGPT, Claude を活用する。AI によるデータ分析手法とその限界について知る。 SPSS との連携を意識したデータ形式の統一方法、分析結果の検証方法と解釈の注意点
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前：基本的な統計用語の確認 事後：分析結果のまとめ

4	安念	学習の主題	プレゼンの準備
		授業内容	プレゼンに向けて AI による図表作成支援、様々な AI の活用を試みる。Gamma, Napkin, Recraft, ImageFX などを活用し、Spatial VR 会場での公開を試、コミュニティを形成しながら本番でのプレゼンの準備を行う。 プレゼン資料作成時の著作権配慮、VR 会場でのプレゼンテーション特有の注意点
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前：プレゼンの構成案作成 事後：プレゼン資料のブラッシュアップ
5	齋藤	学習の主題	保健統計 1
		授業内容	授業ガイダンス。 人口静態統計の概要、人口動態統計に使われる指標および最新の保健統計データの内容を解説し、人口問題の現状と将来の展望について教授する。上記の内容に関わる課題を抽出し、課題についての的確な理解を深める。
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前：最新の国勢調査のデータについての学習 事後：演習課題に対するレポートの作成
6	齋藤	学習の主題	保健統計 2
		授業内容	人口動態統計の概要、人口動態統計に使われる指標および最新の保健統計データの内容を解説し、人口問題の現状と将来の展望について教授する。上記の内容に関わる課題を抽出し、課題についての的確な理解を深める。
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前:最新の出生、死亡等の統計データについての学習 事後: 演習課題に対するレポートの作成
7	齋藤	学習の主題	保健統計 3
		授業内容	傷病統計や健康・栄養統計の統計データの内容を解説し、現状と課題、将来の展望について教授する。上記の内容に関わる課題を抽出し、課題についての的確な理解を深める。
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前：傷病統計や健康・栄養統計についての学習 事後：演習課題に対するレポートの作成
8	齋藤	学習の主題	保健統計 4
		授業内容	授業で提示する模擬人口集団の情報から、人口動態統計および人口動態統計で使用される様々な指標の値を求め、得られたデータから人口集団の特徴について解説する。上記の内容に関わる課題を抽出し、課題についての的確な理解を深める。
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前：人口動態統計および人口動態統計の指標と解析方法の学習 事後：演習課題に対するレポートの作成
9	齋藤	学習の主題	保健統計論文のプレゼンテーション
		授業内容	学生が選択した保健統計に係る複数文献について情報を収集・精読させ、自らの意見を含めて発表させる。
		授業形態	演習
		事前・事後学習	事前：論文の精読、プレゼンテーション資料の作成 事後：討論を踏まえたプレゼンテーション内容の改善
10	齋藤	学習の主題	疫学 1
		授業内容	疫学の概念や考え方、疫学に使われる指標の意味と算出方法を解説し、その応用例について教授する。上記の内容に関わる課題を抽出し、課題についての的確な理解を深める。
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前：疫学の指標に関する学習 事後：演習課題に対するレポートの作成

11	齋藤	学習の主題	疫学 2
		授業内容	疫学研究方法の種類とそれぞれの使用目的と求め方および質問紙の作成方法について解説し、その応用例について 教授する。上記の内容に関わる課題を抽出し、課題についての確な理解を深める。
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前：疫学研究方法の種類に関する学習 事後：演習課題に対するレポートの作成
12	齋藤	学習の主題	疫学 3
		授業内容	疫学の指標、疫学研究方法に関する問題を提示し、学生に解答させた後に解説を行う。
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前：疫学の指標、疫学研究方法の確認 事後：演習課題に対するレポートの作成
13	齋藤	学習の主題	疫学 4
		授業内容	ばく露の効果の指標、頻度の測定と頻度の比較の違いや、疫学手法の応用例について教授する。上記の内容に関わる課題を抽出し、課題についての確な理解を深める。
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前:ばく露の効果の指標、頻度の測定と頻度の比較の違いに関する学習 事後:課題に対するレポートの作成
14	齋藤	学習の主題	疫学研究論文のプレゼンテーション
		授業内容	学生が選択したテーマで、疫学手法を用いた複数文献について情報を収集・精読させ、自らの意見を含めて発表させる。
		授業形態	演習
		事前・事後学習	事前:論文の精読、プレゼンテーション資料の作成 事後:討論を踏まえたプレゼンテーション内容の改善
15	齋藤	学習の主題	講義・演習のまとめとディスカッション
		授業内容	疫学と保健統計に関する講義のまとめと、学生に自らの研究で用いる(予定)研究方法についてその利点と欠点について発表させ、より良い研究方法や解析方法の選択についてディスカッションを行う。
		授業形態	講義・演習
		事前・事後学習	事前：プレゼンテーション資料の作成 事後：研究方法等の再確認

授業科目	健康教育論		担当教員	〇百々瀬いづみ、近藤 明代	
英文科目名	Health Education				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC107	共通科目群	1 年次・後期	選択	演習	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			

授業目的	本科目では、保健医療分野における看護師・保健師・管理栄養士職の重要な役割である健康教育の基礎となる諸理論を学修し、異なる専門的立場から、対象の特性の分析、目的・目標の設定、有効な教育方法や教材の選択方法を学び、適切な教育指導のあり方、企画書と指導案、評価指標の作成法の理解を深める。また、「看護」や「栄養・食」に関する事例をもとに教育指導案を作成、発表し、それらの対象の分析、目標設定、指導内容と方法の効果、教材の選択等の一連の過程を通して、教育指導の理解を深め、実践能力の向上を図る。
到達目標	1. ヘルスプロモーションの理念や行動変容の理論を基に、対象が抱える健康課題をアセスメントできる。 2. 対象が抱える健康課題を体系的に捉え、健康課題の解決のための目的、目標を設定できる。 3. 行動変容の理論を活用し、目標達成のために有効な教育方法や教材の選択ができる。 4. 対象に健康教育を実施する際の企画書、指導案、評価指標を作成できる。 5. 対象の分析、目標設定、指導内容・方法、教材の選択が適切かを評価できる。 6. 対象に実施した健康教育を評価し、学生の課題を明確にして改善に向けた意見を述べることができる。 7. 保健医療分野における専門性が異なる職種の役割と共同する必要性について意見を述べることができる。
テキスト	特に指定なし。
参考書	ローレンス W. グリーン他著 神馬征峰「実践 ヘルスプロモーション」(医学書院) 石井敏弘「健康教育大要」(ライフ・サイエンス・センター) 松田正己「みんなの PHC 入門」(垣内出版株式会社) 一般社団法人日本健康教育学会「健康行動理論による研究と実践」(医学書院) C.エイブラハム M.クルーズ編「行動変容を促すヘルス・コミュニケーション」(北大路書房) 金川克子「食生活の基礎と事例から学ぶ「食事支援・指導」(中央法規) 金川克子「エビデンスと実践事例から学ぶ「運動指導」(中央法規) その他は、授業中に紹介する。
評価方法・評価割合	百々瀬 (50%) : 課題レポート (20%)、提出物 (15%)、パフォーマンス (15%) 近 藤 (50%) : 課題レポート (20%)、提出物 (15%)、パフォーマンス (15%)
評価基準・観点	・課題レポート：本科目の授業目的を踏まえ、具体的な学びについて記載されているか、また、健康教育の計画立案、実施、評価の一連の過程を通して捉えた今後の課題について考察されているかについて評価する。 ・提出物：各授業における発表資料の構成、内容の具体性、学生の意見が具体的に記載されているか、またプレゼンテーションの明確さについて評価する。 ・パフォーマンス：各授業の事前学習、課題への取り組み状況とディスカッションへの参加状況等で評価する。 ※評価基準の詳細はガイダンス時に提示する。
履修上の留意事項	参考書と配付資料を活用しながら授業に参加すること。また指導案の作成においては、自己体験をもとに意見交換をしながら学修を進める。1～12 回目は、他の科目の時間割の都合も勘案しながら、遠隔で行う場合がある。実践発表の回 (13～15 回目) は、対面で行う。

回数	担当		
1	近藤 明代	学習の主題	科目ガイダンスとヘルスプロモーションの理解①
		授業内容	1. 本科目の目的、目標、授業内容、評価方法、履修上の留意点を説明 2. ヘルスプロモーションの理念とプリシード・プロシードモデルの紹介
		授業形態	講義およびディスカッション
		事前・事後学習	事前：提示された参考書を基にヘルスプロモーションについて調べる (1 時間程度)。 事後：プリシード・プロシードモデルについて復習する (1 時間程度)。
2	近藤 昭代	学習の主題	ヘルスプロモーションの理解②
		授業内容	ヘルスプロモーションの理念をもとに、学生自身の実践活動を分析し、課題を明らかにする。
		授業形態	講義およびディスカッション
		事前・事後学習	事前：学生自身の活動を説明する資料を作成する (1 時間程度)。 事後：授業内で分析した内容をまとめ、課題を明確にする (1 時間程度)。

3	近藤 明代	学習の主題	行動変容の理論①
		授業内容	行動変容の理論を紹介 1つの行動変容の理論をもとに、学生自身の活動を分析する
		授業形態	講義およびディスカッション
		事前・事後学習	事前：行動変容の理論について予習し、分析する活動を紹介する資料を作成する（1時間程度）。 事後：分析した結果をまとめる（1時間程度）。
4	近藤 昭代	学習の主題	行動変容の理論②
		授業内容	行動変容の理論を紹介 ①とは異なる行動変容の理論をもとに、学生自身の活動を分析する
		授業形態	講義およびディスカッション
		事前・事後学習	事前：行動変容の理論について予習し、分析する活動を紹介する資料を作成する（1時間程度）。 事後：分析した結果をまとめる（1時間程度）。
5	百々瀬 いづみ	学習の主題	行動変容の理論③
		授業内容	行動変容の理論を紹介 ① ②とは異なる行動変容の理論をもとに、学生自身の活動を分析する。
		授業形態	講義およびディスカッション
		事前・事後学習	事前：行動変容の理論について予習し、分析する活動を紹介する資料を作成する（1時間程度）。 事後：分析した結果をまとめる（1時間程度）。
6	百々瀬 いづみ	学習の主題	行動変容の理論④
		授業内容	行動変容の理論を紹介 ① ～③とは異なる行動変容の理論をもとに、学生自身の活動を分析する。 ②
		授業形態	講義およびディスカッション
		事前・事後学習	事前：参考図書と配付資料をもとに予習する（1時間程度）。 事後：授業内容をまとめ、ポイントを復習する（1時間程度）。
7	百々瀬 いづみ	学習の主題	行動変容の理論の活用①
		授業内容	行動変容の理論を活用した健康教育(個別指導)を紹介する準備を行う。
		授業形態	演習
		事前・事後学習	事前：参考図書と配付資料をもとに予習する（1時間程度）。 事後：授業内容をまとめ、ポイントを復習する（1時間程度）。
8	百々瀬 いづみ	学習の主題	行動変容の理論の活用②
		授業内容	行動変容の理論を活用した健康教育(個別指導)を紹介する準備を行う。
		授業形態	演習
		事前・事後学習	事前：参考図書と配付資料をもとに予習する（1時間程度）。 事後：授業内容をまとめ、ポイントを復習する（1時間程度）。
9	百々瀬 いづみ 近藤 明代	学習の主題	健康教育(個別指導)の発表・評価
		授業内容	各自が実施する健康教育(個別指導)の報告と行動変容技法の活用について討論する。
		授業形態	ディスカッション
		事前・事後学習	事前：健康教育を実施する資料を作成する（1時間程度）。 事後：発表・討論後の自身の課題を明確にする（1時間程度）。
10	近藤 明代	学習の主題	健康教育(集団指導)実践に向けた計画立案①
		授業内容	健康教育の対象が抱える健康課題について看護師、保健師、管理栄養士の立場から目標達成に向けた計画書（企画書・指導案）と評価指標の作成
		授業形態	講義・ディスカッション
		事前・事後学習	事前：事例の課題を明確にし、健康教育の目標を発表する際の資料を作成する（1時間程度）。 事後：事例の課題を検討した結果をまとめる（1時間程度）。

11	百々瀬 いづみ 近藤 明代	学習の主題	健康教育(集団指導)実践に向けた計画立案②
		授業内容	目標達成に向けた計画書（企画書・指導案）と評価指標の発表 計画書と評価指標の妥当性についてのディスカッション 健康教育に参画する専門性が異なる職種の役割と共同する必要性についてディスカッション
		授業形態	ディスカッション
		事前・事後学習	事前：参考図書や授業での検討内容を基に、計画立案の準備をする（1時間程度）。 事後：意見交換結果を基に修正を行う（1時間程度）。
12	百々瀬 いづみ 近藤 明代	学習の主題	健康教育(集団指導)実践に向けた計画立案・実践準備
		授業内容	ディスカッションの結果を踏まえて、健康教育の実践の準備を行う。
		授業形態	演習
		事前・事後学習	事前：参考図書や授業での検討内容を基に、計画立案の準備をする（1時間程度）。 事後：意見交換結果を基に修正を行う（1時間程度）
13	百々瀬 いづみ 近藤 明代	学習の主題	健康教育の実施①
		授業内容	立案した計画をもとに場面を設定し、実際に健康教育を展開
		授業形態	ロールプレイ。対面で実施。
		事前・事後学習	事前：対象を選定し、健康教育の実施に向けた準備を行う（1時間程度）。 事後：実施後の評価を行う（1時間程度）。
14	百々瀬 いづみ 近藤 明代	学習の主題	健康教育の実施②
		授業内容	立案した計画をもとに場面を設定し、実際に健康教育を展開
		授業形態	ロールプレイ。対面で実施。
		事前・事後学習	事前：対象を選定し、健康教育の実施に向けた準備を行う（1時間程度）。 事後：実施後の評価を行う（1時間程度）。
15	百々瀬 いづみ 近藤 明代	学習の主題	健康教育の評価
		授業内容	健康教育の計画立案から評価までの一連の過程を通しての学びを振り返り、専門性を活かした健康教育を実施する際に求められる実践能力と自己の今後の課題についてのディスカッション
		授業形態	ディスカッション。対面で実施。
		事前・事後学習	事前：健康教育の実施の評価を報告する準備を行う（1時間程度）。 事後：分析した事後：本科目の学びを課題レポートにまとめる（1時間以上）。

授業科目	健康食生活学特論		担当教員	○板垣 康治、金高 有里	
英文科目名	Seminar in Health and Diet				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC108	共通科目群	1 年次・前期	選択	講義	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			

授業目的	本科目は、健康の維持増進、保健活動としての疾病予防の観点から、個人のライフステージや心身の健康状態に対応した支援の重要課題の一つである健全な食習慣構築に向けた食生活のあり方を学び、修得することを目的とする。すなわち、食品が持つ一次（栄養）・二次（感覚）・三次（生体調節）の3つの機能の中で、とくに三次機能として食品に由来する免疫機能発現を中心に解説する。次に、健康増進に寄与する日常の食生活の実践的支援に向けて、現代食生活の課題とその解決に寄与する健全な食生活のあり方を解説する。
到達目標	1. 各ライフステージにおける現代食の課題、個人の健康と食生活の関係を説明できる。 2. 健全な食習慣構築のためのエビデンスに基づく食生活のあり方を説明できる。 3. 修得した知識・技術を自己の専門分野で実践する方策を検討できる。 4. 食品の一次（栄養）・二次（感覚）・三次（生体調節）の3つの機能と活用法を説明できる。 5. 健康と食性活の関係で注目される食品由来の免疫調節機能、アレルギー発現について説明できる。
テキスト	海老澤元宏監修「新版食物アレルギーの栄養指導」（医歯薬出版株式会社）
参考書	今井伸二郎「機能性食品学」（コロナ社） 戸塚 護「食品免疫学のプロが書いたウイルスに負けない最高の食事術」（扶桑社） 伊藤浩明「食物アレルギーのすべて」（診断と治療社）
評価方法・評価割合	板垣（70％）：提出物（30％）、授業への参加状況（20％）、発表（20％） 金高（30％）：提出物（10％）、授業への参加状況（10％）、発表（10％）
評価基準・観点	提出物：提出状況および内容の具体性、論理性 授業への参加状況：積極的な発言、発言内容の論理性、適確性 発表：提示内容の論理性、質疑応答の具体性、適確性、討議姿勢など
履修上の留意事項	常に問題意識を持って授業に積極的に参加し、予習、復習に努めること。 板垣：遠隔と対面の併用で実施する。 金高：遠隔と対面の併用で実施する。事前の予習、事後の復習を行う。

回数	担当		
1	板垣 康治	学習の主題	授業オリエンテーション
		授業内容	本科目の目的、目標、授業の進め方、評価方法・基準などについて説明する。食の機能性（一次機能、二次機能、三次機能）について解説する。
		授業形態	
		事前・事後学習	事前；食の一次機能、二次機能、三次機能について調べておくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。
2	板垣 康治	学習の主題	食物アレルギーの診療（1）
		授業内容	食物アレルギーの定義、経緯、病態、臨床型分類、特殊型、疫学などについて解説する。
		授業形態	
		事前・事後学習	事前；教科書 pp.2～18 を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。
3	板垣 康治	学習の主題	食物アレルギーの診療（2）
		授業内容	食物アレルギー、予知と予防、診断、食物経口負荷試験、症状と評価・対応について解説する。
		授業形態	
		事前・事後学習	事前；教科書 pp.19～49 を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。
4	板垣 康治	学習の主題	食物アレルギーの栄養食事指導（1）
		授業内容	主な原因食品の考え方について解説する。
		授業形態	
		事前・事後学習	事前；教科書 pp.47～76 を読んでおくこと（2 時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）。

5	板垣 康治	学習の主題	食物アレルギーの栄養食事指導（２）
		授業内容	加工食品とアレルギー表示、ライフステージ別の食事の留意点、患者の悩み、食物アレルギー栄養指導の面接技法について解説する。
		授業形態	
		事前・事後学習	事前；教科書 pp.77～88 を読んでおくこと（２時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（２時間）。
6	板垣 康治	学習の主題	専門分野別の栄養士の役割と実践事例（１）
		授業内容	病院栄養士の役割と実践事例について解説する。
		授業形態	
		事前・事後学習	事前；教科書 pp.94～112 を読んでおくこと（２時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（２時間）。
7	板垣 康治	学習の主題	食物アレルギーの栄養食事指導（３）
		授業内容	保育施設の食物アレルギー対応について解説する。
		授業形態	
		事前・事後学習	事前；教科書 pp.106～125 を読んでおくこと（２時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（２時間）。
8	板垣 康治	学習の主題	食物アレルギーの栄養食事指導（４）
		授業内容	学校における食物アレルギー対応について解説する。
		授業形態	
		事前・事後学習	事前；教科書 pp.126～149 を読んでおくこと（２時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（２時間）。
9	板垣 康治	学習の主題	食物アレルギーの栄養食事指導（５）
		授業内容	行政の栄養指導、災害時における食物アレルギー児の支援について解説する。
		授業形態	
		事前・事後学習	事前；教科書 pp.150～161 を読んでおくこと（２時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめ、発表の準備を行う（２時間）。
10	板垣 康治	学習の主題	食物アレルギー事故事例から学ぶ（総括と実践的対応）
		授業内容	実際に起きた食物アレルギー事故の事例をもとに、問題点の抽出および改善点について考える。
		授業形態	
		事前・事後学習	事前；食物アレルギーに関して各施設、教育現場等で起こりうるヒヤリハット、事故について調べておく（２時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（２時間）。
11	金高 有里	学習の主題	現代食生活の課題点と保健活動の現状
		授業内容	現代食生活の課題として、ライフステージ別に生じている問題を検討する。また、健康の維持増進、疾患予防の保健活動の現状とあり方を考察する。
		授業形態	対面
		事前・事後学習	事前；参考資料、関連論文・記事を読んでおく（２時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（２時間）。
12	金高 有里	学習の主題	周産期・妊娠期における健康と食生活
		授業内容	健康増進に寄与する日常の食生活の実践について、女性の妊娠期・周産期のライフステージにおける課題と問題解決について考察し、検討する。
		授業形態	遠隔
		事前・事後学習	事前；参考資料、関連論文・記事を読んでおく（２時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（２時間）。
13	金高 有里	学習の主題	授乳期・乳児期における健康と食生活
		授業内容	健康増進に寄与する日常の食生活の実践について、女性の授乳期と乳児のライフステージにおける栄養と離乳食における課題と問題解決について考察し、検討する。
		授業形態	遠隔
		事前・事後学習	事前；参考資料、関連論文・記事を読んでおく（２時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（２時間）。

14	金高 有里	学習の主題	幼児期・学童期・思春期における健康と食生活
		授業内容	健康増進に寄与する日常の食生活の実践について、幼児期・学童期・思春期のライフステージにおける栄養と生活における課題と問題解決について考察し、検討する。
		授業形態	遠隔
		事前・事後学習	事前；参考資料、関連論文・記事を読んでおく（2時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）。
15	金高 有里	学習の主題	成人期・高齢期における健康と食生活
		授業内容	健康増進に寄与する日常の食生活の実践について、成人期・高齢期のライフステージにおける栄養と生活における課題と問題解決について考察し、検討する。
		授業形態	遠隔
		事前・事後学習	事前；参考資料、関連論文・記事を読んでおく（2時間）。 事後；授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）。

授業科目	健康医療科学特論		担当教員	○家子 正裕、時野 隆至、坂本 尚志	
英文科目名	Seminar in Health and Medical Sciences			萩原 重俊	
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC109	共通科目群	1 年次・前期	選択	講義	1 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	各ライフステージに応じた生涯を通じた保健医療サービスを進めるには、専門職者である看護師・保健師・管理栄養士が、サービス対象者のライフステージや健康状態に対応する生理学的・栄養代謝学的特徴に関する知識を持ち、それが成長・発達・成熟・加齢や生活習慣によりどのように影響されるかを正しく理解する必要がある。本特論では、ライフステージごとの健康課題に深く関連する生理学的・栄養代謝学的特徴を、分子・細胞・臓器・器官系の各レベルで解説する。さらに、加齢、生活習慣、疾患・病態の影響や合併症に関して解説する。また、保健医療サービスの実践において重要である、症状・徴候の医科学的判断・評価の実際について、特に生活習慣病予防を視野に入れながら解説する。その学修を踏まえ、健康の決定因子の科学的理解に基づく保健医療専門職者としてヘルスプロモーションへの寄与のあり方を論じる。				
到達目標	1. 心身のライフステージを通じた変化について分子・細胞レベルで説明できる。 2. 心身のライフステージを通じた変化について臓器・器官系レベルで説明できる。 3. 以下の各ライフステージにおける生理学的・栄養代謝学的特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、各ライフステージにおける健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価法について説明できる。 1) 妊娠出産期 2) 乳幼児期（0～5 歳） 3) 学童期（6～11 歳） 4) 思春期（12～17 歳） 5) 青年期（18～35 歳） 6) 壮年期（40～64 歳） 7) 高齢期（前期、65～74 歳） 8) 高齢期（後期、75 歳～） 4. 加齢の健康への影響、保健医療上の課題と対策について説明できる。 5. 生活習慣の健康への影響、保健医療上の課題と対策について説明できる。 6. 疾患・病態の健康への影響、保健医療上の課題と対策について説明できる。 7. 生活習慣病の合併症、症状・徴候の医科学的判断・評価の実際について説明できる。 8. 生涯を通じた保健医療サービスの在り方、教育・研究に係る倫理、他者との連携・協働について考察できる。				
テキスト	授業で配布するレジュメ				
参考書	稲山貴代 小林三智子 編著「ライフステージ栄養学」（建帛社） 金川克子編 公衆衛生看護活動論①ライフステージの特性と保健活動（最新 保健学講座）（メジカルフレンド社）				
評価方法・評価割合	家子（60％）：レポート 80％（課題 7 題）、授業態度 20％ 時野（10％）：レポート 80％（課題 2 題）、授業態度 20％ 坂本（10％）：レポート 80％（課題 2 題）、授業態度 20％ 萩原（20％）：レポート 80％（課題 4 題）、授業態度 20％				
評価基準・観点	レポート：授業で出される課題について、レポート（ワード A4 版で各課題 1,200 字以内）を作成し、次回の授業までにメールで提出する。課題の要求に対して複数文献を調査・引用し、情報を収集・分析し、自らの意見を加えて（5 点満点）、言語表現上（3 点満点）、及び小論文としての形式上（2 点満点）も適切であるかを評価する（各レポート 10 点満点、計 80 点満点）。 授業態度：各授業において自らの意見（各 5 点）を積極的に述べる学生や、熱心に質問（各 5 点）をする学生に対しては、授業態度について評価点を与える（全 15 回で最大 20 点満点）。 ディプロマ・ポリシーに則り、①自己の専門分野および関連分野に関する高度で体系的な知識・技術を修得し、それらを保健医療の実践に活用し展開できる能力を有しているか、②保健医療における看護と栄養の実践、および教育・研究に係る倫理を幅広く理解し、適用できる能力を有しているか、③複雑化・多様化する保健医療の場において、他者と連携・協働し、課題解決に向けて主体的に対応できる能力を有しているかについて評価する。				

履修上の留意事項	消極的な姿勢で本科目の授業に参加しても、評価基準の関係で高い評価を得ることができません。毎回、積極的な姿勢で授業参加してください。 家子：対面実施のみ 坂本：対面実施のみ 時野：対面実施のみ 萩原：対面実施のみ
----------	---

回数	担当		
1	坂本	学習の主題	ライフステージの変化（１）
		授業内容	ライフステージにおける心身の分子・細胞レベルの特徴と変化について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習２時間、復習２時間の学習を行う。
2	坂本	学習の主題	ライフステージの変化（２）
		授業内容	ライフステージにおける心身の臓器・器官系レベルの特徴と変化について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習２時間、復習２時間の学習を行う。
3	萩原	学習の主題	妊娠出産期の健康と保健
		授業内容	妊娠出産期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習２時間、復習２時間の学習を行う。
4	萩原	学習の主題	乳幼児期の健康と保健
		授業内容	乳幼児期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習２時間、復習２時間の学習を行う。
5	萩原	学習の主題	学童期の健康と保健
		授業内容	学童期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習２時間、復習２時間の学習を行う。
6	萩原	学習の主題	思春期の健康と保健
		授業内容	思春期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習２時間、復習２時間の学習を行う。
7	家子	学習の主題	青年期の健康と保健
		授業内容	青年期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習２時間、復習２時間の学習を行う。

8	家子	学習の主題	壮年期の健康と保健
		授業内容	壮年期の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。
9	家子	学習の主題	高齢期（前期）の健康と保健
		授業内容	高齢期（前期）の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。
10	家子	学習の主題	高齢期（後期）の健康と保健
		授業内容	高齢期（後期）の生理学的・栄養代謝学的の特徴、成長・発達・成熟・加齢の影響、健康課題とそれに関連する症状・徴候とその評価方法について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。
11	家子	学習の主題	加齢と保健
		授業内容	加齢の健康への影響と保健医療上の課題と対策について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。
12	家子	学習の主題	生活習慣と保健
		授業内容	生活習慣の健康への影響と保健医療上の課題と対策について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。
13	家子	学習の主題	疾患・病態と保健
		授業内容	疾患・病態が心身の健康に及ぼす影響、保健医療上の課題と対策について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。
14	時野	学習の主題	生活習慣病の合併症
		授業内容	生活習慣病の重要な合併症の種類、生成機序、症状・徴候、医科学的判断・評価の実際について学ぶ。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。
15	時野	学習の主題	生涯を通じた保健医療サービス
		授業内容	生涯を通じた保健医療サービスの在り方、それに伴う教育・研究に係る倫理、他者との連携・協働について、プレゼンテーション、ディスカッションにより考察する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前に配布するレジュメ、テキスト・参考書の指定頁、各自で収集したネット情報などを用いて予習 2 時間、復習 2 時間の学習を行う。

授業科目	フィールドワーク		担当教員	○服部 ユカリ、川口 美喜子、近藤 明代	
英文科目名	Fieldwork				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC110	共通科目群	2年次・通年	必修	実習	1単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○		○	○	○
授業目的	看護職と栄養職（管理栄養士）は、健康・生活・栄養を共有概念とする専門職としての特性を有している。そのため、両者の連携・協働による専門的視点の相補的活用が、対象者中心の健康増進・健康再生支援の質的向上に寄与する可能性を有することは既修のとおりである。しかしながら、看護職と栄養職の関係構築に影響を及ぼす様々な要因により連携・協働体制が進展しているとは言い難いのが実情である。こうしたことを前提に、健康・生活・栄養にかかわる質の高い保健医療の実現をめざし、多職種連携やチームマネジメント等、看護職と栄養職が連携・協働する健康生活支援の基盤となる知識・技術の学修を深め、基盤的能力の向上に取り組んできたところである。 本科目では、これまでの学修を踏まえて、看護職・栄養職が活動する場（フィールド）において、対象者に提供されるケア等の活動実態と連携・協働のありよう、ケアマネジメントやチームマネジメント等の実際について、シャドーイングを中心とする学修活動によって把握・理解するとともに課題を洗い出し、自分なりの改善・改革方略を提案する。具体的には、看護職・栄養職が看護ケア・栄養ケアを実践する保健医療施設・事業所（フィールド）において、自ら立案した学修課題と学修目標・計画をもとに学修活動を展開し、その成果を学生間で共有・発展させ、教員とディスカッションすることにより、看護職・栄養職の連携・協働、保健医療のあり方について洞察を深める。				
到達目標	1. 自ら設定した学修課題をもとに選択したフィールドで活動することを視野に入れ、利用者と看護職・栄養職等との連携・協働、ケアマネジメント、チームマネジメントの実際と特徴を学ぶための学修目標・計画を具体的に立案できる。 2. フィールドとした施設の特徴と事業内容を把握し、地域の保健医療における位置と役割について説明できる。 3. 当該施設における看護職・栄養職の役割と活動内容、多職種連携・協働のありようを把握し、説明できる。 4. 当該施設における看護職・栄養職の関わるケアマネジメント、チームマネジメントの実態を把握し、説明できる。 5. 当該施設の事業内容と看護職・栄養職が行う看護ケア・栄養ケアの現状を踏まえ、対象者中心のケアを実現するための目標と課題について考察できる。 6. フィールドワークの成果を他者と共有することで、看護・栄養の連携・協働を推進するうえでの目標と課題、について改善・改革方策に関する洞察を深め、私見を述べることができる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・評価割合	学習課題・目標・計画（20％）、フィールド記録（20％）、成果発表とディスカッション（20％）、課題レポート（20％）、フィールドでのパフォーマンス（20％）				
評価基準・観点	1) 学修目標・計画：授業目的との関連性と具体性等 2) フィールド記録：所定の項目に対する記述内容の具体性等 3) 成果発表とディスカッション：発表用資料の構成・内容の具体性、発表内容・発表姿勢、ディスカッションへの参加状況等 4) 課題レポート：テーマと記述内容の一貫性、全体の論理性、文章表現、私見の具体性等 5) フィールドでのパフォーマンス：ワークへの取り組み姿勢等				
履修上の留意事項	1. フィールドの選択、学修目標・計画の立案に関しては、事前に担当教員の指導を受ける。 2. ガイダンス時に配付する実施要項を熟読して科目の到達目標を達成するための自分自身の目標とそれに関連する実習内容を含むフィールドワーク計画書を事前に作成する。それに基づき、フィールドワークの内容が決められる。事前学習の段階から主体的にワークに臨む。 ※対面での実施				

学修方法	1. ガイダンスと事前学修（1日間） 1) ガイダンス：フィールドワーク実施要項を用い、本科目の目的・内容・方法を説明 2) 事前学修：学修課題の明確化とフィールドの選択、学修目標・計画の立案 3) 担当教員との面談：学修課題を踏まえたフィールドの選択と学修目標・計画に関する指導を受ける 2. フィールドでの学修（3日間） 実施時期は、学習状況および受け入れ施設の状況等を勘案して4月～11月の期間内で調整する 実施期間：3日間、原則 9:00～15:30 とする 実施日程は担当教員と調整し決定する 内容・方法等： 1) フィールドの担当者に同行し、シャドーイングによる学修を行う 2) 利用者1例以上のケア、当該施設の事業内容と看護職・栄養職、その他の関係職種との連携・協働のありよう、チームマネジメントの実際について説明を受ける 3) 適宜カンファレンス等に参加する 4) 利用者のケア等に同行し見学する（当該施設の許可と利用者の同意に基づく） 5) 学修計画は事前に当該施設の担当者と調整する 6) 日々の学修内容は所定のフィールド記録に記載し、必要に応じて担当者に提示する 3. 学内学修（1日間） 1) 学修記録等の整理 2) 学修成果の発表とディスカッション 4. 学修のまとめ フィールドでの体験と学内学修をもとに、本科目での学修成果にかかわるレポートをまとめる
フィールド	看護職・栄養職が看護ケア・栄養ケアを実践している場所とし、看護職・栄養職の別にかかわらず自己の学修課題に基づき、教員の指導を受けて選択する。 実習施設：東苗穂訪問看護ステーションなど

授業科目	健康増進支援学特論		担当教員	○近藤 明代、金高 有里、菊地 和美	
英文科目名	Seminar in Support Science of Health Promotion				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC201	専門科目群 健康増進支援領域	1 年次・前期	選択必修	講義	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			
授業目的	超高齢社会・少子化の加速による健康課題に対応するため、国は将来においても国民が健やかに生活できることを目指し、健康寿命の延伸と健康格差の縮小、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底等、人々の生活のあり方を見直し、社会環境の改善・向上を目指している。また、住み慣れた地域で、子どもから高齢者までの各ライフステージにおける健康づくり政策を掲げている。 本科目では、歴史的視点・社会的視点から、地域保健活動の現状と課題を捉えたうえで、「食」という観点から地域特性を理解し、地域特性を活かした健康づくりについて考察する。また、地域の住民の各ライフステージにおける「食」が介在する健康を捉え、フードサービス、栄養マネジメントの役割について教授する。これらの学びをもとに、保健医療職である看護職（看護師・保健師）栄養士職のそれぞれの専門性を踏まえた役割・機能と協働のあり方について考察する。				
到達目標	・わが国の地域保健に関する課題と地域保健医療体制の変遷について説明できる。 ・健康に影響する社会的決定要因を理解した上で、健康な地域づくりに向けた対策を説明できる。 ・地域の食生活・食習慣と健康課題の関係について説明できる。 ・地域の食に関する健康課題の解決のためのヘルスプロモーション活動の実践について説明できる。 ・ヘルスプロモーションを基盤とした地域づくりにおける関係職種の連携・協働のあり方について考察できる。 ・地域の食に関する健康課題の解決プロセスにおける看護職・管理栄養士としての役割について説明できる。 ・ライフステージ毎の健康課題と地域で展開される地域づくりについて説明できる。 ・ライフステージにおける食が介在する健康課題を説明できる。 ・ライフステージにおける食が介在する地域の健康課題における看護職・管理栄養士の役割を説明できる。				
テキスト	近藤：授業に必要な資料は配付する。 菊地：授業に必要な資料は配付する。 金高：授業に必要な資料は配布または送付する。				
参考書	・厚生労働統計協会：国民衛生の動向・厚生指針 増刊（厚生労働統計協会） ・辻一郎：健康寿命社会を実現する「2025 年問題」と新しい公衆衛生戦力の展望（大修館書店） ・多田羅浩三：公衆衛生の思想 歴史からの教訓（医学書院） ・辻浩：住民参加型福祉と生涯学習（ミネルヴァ書房） ・川上憲人：社会格差と健康（東京大学出版会） ・府川哲夫：保健医療福祉行政論（ミネルヴァ書房） ・医療情報科学研究所：公衆衛生がみえる 2024-2025（メディックメディア）				
評価方法・評価割合	近藤（40％）：発表資料(10％)、ディスカッション(10％)、課題レポート(20％) 金高（30％）：発表資料(10％)、ディスカッション(10％)、課題レポート(10％) 菊地（30％）：発表資料(10％)、ディスカッション(10％)、課題レポート(10％)				
評価基準・観点	近藤（40％）：発表資料（テーマと記述内容の一貫性、事前学習の深度） ディスカッション（参加状況、私見の具体性） 課題レポート（テーマと記述内容の一貫性、テーマに関する学びに対する私見の具体性） 金高（30％）：発表資料（テーマと記述内容の一貫性、事前学習の深度） ディスカッション（参加状況、私見の具体性） 課題レポート（テーマと記述内容の一貫性、テーマに関する学びに対する私見の具体性） 菊地（30％）：発表資料（テーマと記述内容の一貫性、事前学習の深度） ディスカッション（参加状況、私見の具体性） 課題レポート（テーマと記述内容の一貫性、テーマに関する学びに対する私見の具体性）				

履修上の留意事項	近藤：提示した資料以外にも、関連書籍や資料を基に情報を収集してください。 遠隔授業で実施しますので、ディスカッション時の発表資料は事前に Teams 内にアップしてください。 金高：文献を積極的に検索し、情報収集を行ってください。遠隔授業で実施します。指示された方法で、資料等の提出を行ってください。 菊地：文献を積極的に検索し、情報収集を行ってください。 遠隔授業で実施しますので、ディスカッション時の発表資料は事前に Teams 内にアップしてください。
----------	--

回数	担当		
1	近藤	学習の主題	わが国における地域保健医療体制の変遷
		授業内容	・ ガイダンス ・ わが国の社会情勢と健康課題の変遷 ・ わが国の健康政策の変遷
		授業形態	講義、ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し、予習を行う（1 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（1 時間）。
2	近藤	学習の主題	わが国が抱える健康課題と地域保健医療体制の特徴
		授業内容	・ 少子高齢社会のわが国が抱える課題（2025 年問題、2040 年問題等） ・ 少子高齢社会のわが国が抱える健康課題と地域保健医療体制の特徴
		授業形態	講義、ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し予習を行う（1 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。
3	近藤	学習の主題	わが国の子ども・子育て世代の健康政策と保健活動
		授業内容	・ 健やか親子 21（第 2 次）のねらいと内容 ・ 地域における子ども・子育て世代を対象とした取り組みの実態と課題 ・ 保健医療職（看護職・管理栄養士）に求められる役割と課題
		授業形態	事前の学習内容の発表、ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し発表資料を作成する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。
4	近藤	学習の主題	わが国の成人・高齢者が抱える健康課題と政策
		授業内容	・ 成人・高齢者を取り巻く社会環境と健康課題、健康政策の変遷 ・ 健康日本 21、健康日本 21（第 2 次）、健康日本 21（第 3 次）の趣旨と内容
		授業形態	事前の学習内容の発表、ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し発表資料を作成する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。
5	近藤	学習の主題	健康格差の縮小への取り組み
		授業内容	・ 健康の社会的決定要因 ・ 健康格差の現状 ・ 健康格差の縮小の取り組み
		授業形態	事前の学習内容の発表、ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し発表資料を作成する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。
6	近藤	学習の主題	ソーシャル・キャピタルと健康
		授業内容	・ ソーシャル・キャピタルの醸成が求められる理由 ・ ソーシャル・キャピタルと健康の関係
		授業形態	講義・ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し予習する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。

7	金高	学習の主題	地域保健における食の介在する健康課題と管理栄養士の役割
		授業内容	1. 地域における栄養マネジメント 2. フードサービスの理論と実際 3. 地域保健とフードサービスの役割・課題
		授業形態	講義・ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し予習する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。
8	金高	学習の主題	各ライフステージにおける食が介在する健康課題と管理栄養士の支援
		授業内容	1. 母子と家族の栄養状態と食生活のアセスメント 2. 母子と家族の栄養状態と食生活の改善計画 3. 母子と家族へのフードサービス 4. 母子と家族への栄養マネジメント
		授業形態	講義・ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し予習する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。
9	金高	学習の主題	各ライフステージにおける食が介在する健康課題と栄養管理士の支援
		授業内容	1. 成長期の栄養状態と食生活のアセスメント 2. 成長期の栄養状態と食生活の改善計画 3. 成長期と家族へのフードサービス 4. 成長期の環境と家族への栄養マネジメント
		授業形態	講義・ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し予習する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。
10	金高	学習の主題	各ライフステージにおける食が介在する健康課題と栄養管理士の支援
		授業内容	1. 勤労する人と家族の栄養状態と食生活のアセスメント 2. 勤労する人と家族の栄養状態と食生活の改善計画 3. 勤労する人と家族へのフードサービス 4. 勤労する人と家族への栄養マネジメント
		授業形態	講義・ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し予習する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。
11	金高	学習の主題	各ライフステージにおける食が介在する健康課題と栄養管理士の支援
		授業内容	1. 高齢者と家族の栄養状態と食生活のアセスメント 2. 高齢者と家族の栄養状態と食生活の改善計画 3. 高齢者と家族へのフードサービス 4. 高齢者と家族への栄養マネジメント
		授業形態	講義・ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し予習する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。
12	菊地	学習の主題	北海道の保健に係る歴史的・社会的背景：生活文化（衣食住）の特徴と変遷
		授業内容	1. 北海道の保健に係る歴史的・社会的背景 2. 北海道における生活文化（衣食住）とその背景 3. 北海道と東北以南の生活文化（衣食住）の関係性
		授業形態	講義・ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し予習する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。
13	菊地	学習の主題	北海道の保健に係る歴史的・社会的背景：北海道の地域生活と食生活
		授業内容	1. 北海道の食事や食環境の特徴 2. 北海道の食生活の変遷 3. 北海道の地域特性と食生活・食習慣との関係
		授業形態	講義・ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し予習する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。

14	菊地	学習の主題	北海道の各地域の特性、食生活・食習慣とそれに関連した健康課題
		授業内容	1. 北海道道東の地域特性と食生活・食習慣の実際と課題 1. 北海道：道北の地域特性と食生活・食習慣の実際と課題 2. 北海道：道央の地域特性と食生活・食習慣の実際と課題 3. 北海道：道南の地域特性と食生活・食習慣の実際と課題
		授業形態	講義・ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し予習する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。
15	菊地	学習の主題	産業に影響を受ける食生活・食習慣とそれに関連した健康課題
		授業内容	1. 農業・酪農を主産業とする地域の食習慣と健康課題 2. 水産業・漁業を主産業とする地域の食習慣と健康課題 3. サービス業を中心とする地域の食習慣と健康課題
		授業形態	講義・ディスカッション
		事前・事後学習	事前学習：参考書や学生自身がテーマに関する情報を収集し予習する（2 時間）。 事後学習：事業内容を復習し課題をまとめる（2 時間）。

授業科目	健康増進支援特別演習		担当教員	研究指導教員 (近藤 明代、金高 有里、板垣 康治、 津久井 隆行、百々瀬 いづみ)	
英文科目名	Practicum in Support Science of Health Promotion				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC202	専門科目群 健康増進支援領域	1 年次・通年	選択必修	演習	6 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
			○	○	○
授業目的	健康増進支援領域の専門科目の学修内容を深化させるとともに、健康の維持増進や病気の予防を目的とする地域保健の視野から、地域に暮らす人々の健康生活の向上に係る関心ある課題について、保健医療学分野における健康増進支援のあり方に焦点を当て、保健医療系の文献の選定、精読、内容検討、グループワーク、討議、プレゼンテーション、フィールドワーク等を通して研究テーマを明確化し、設定することを目的とする。 健康増進支援領域で設定した研究テーマに関連する最新の研究の動向把握と研究の深化に必要な継続的文献検索と精読、プレゼンテーション、討議等の展開を通して、課題解決と論文作成に求められる研究能力を培う。また、研究倫理、適切な研究方法の選択を踏まえて研究計画を策定し、発表会の準備を行う。				
到達目標	1. 健康増進支援領域における課題を把握し、増進支援のあり方を探究できる。 2. 健康の増進や病気の予防に係る研究課題に関連する文献を選定できる。 3. 保健医療系文献を選定できる。 4. 選定した文献を精読し、論点について明確に述べることができる。 5. 自ら取り組む研究テーマを明確化できる。 6. 研究テーマに適した研究デザインを構築し、適した研究方法を選択できる。 7. 健康増進支援領域で自ら設定した研究テーマに係る最新の研究の動向を説明できる。 8. 自ら設定した研究テーマについて、専門分野における意義と目的を説明できる。 9. 領域に係る課題の解決と研究の深化に必要な文献を選定できる。 10. 文献の精読を通し、論点を整理し、論理的に説明できる。 11. 修士論文作成のための研究遂行に求められる研究倫理ガイドラインを厳守し、倫理的な配慮を行うことができる。 12. 適切な対象の選定、研究方法を踏まえた研究計画を策定できる。 13. 修士論文作成のための研究のテーマ、目的、期待される成果の一貫性について、明確に説明できる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・評価割合	ディスカッション（35%）、プレゼンテーション（35%）、研究計画書（30%）				
評価基準・観点	1) ディスカッション：研究テーマに関連した課題に係わるディスカッションにおける、参加姿勢、発言の論点、内容の論理性、私見の展開等 2) プレゼンテーション：研究テーマに関連した課題に係わるプレゼンテーションにおける、発表資料の構成・内容の完成度、発表姿勢等 3) 研究計画書：研究倫理ガイドラインを厳守した倫理的な配慮、適切な研究方法、研究テーマ、目的、成果の一貫性				
履修上の留意事項	1. 健康増進支援領域における自身の関心を意識して、積極的に課題や事例の情報収集に努め、研究計画の立案に繋げる。 2. 主体的にディスカッションに臨む。				
学修方法	主指導教員から、次の学修計画に基づき教授する。 1. 健康増進支援領域において、学生自身が関心をもつ研究テーマに関連した文献の選定、精読を進める。 2. プレゼンテーションやディスカッションを通して、とくに地域に暮らす人々の健康増進支援の現状と課題についての確な理解を深める。 3. グループワーク等を通して専門科目群での学修内容を深化させ、看護職・管理栄養士の視点からの科学的根拠に基づく支援のあり方について理解を深める。 4. 本演習の学修を通して自ら取り組む研究テーマの意義を検証し、研究テーマの明確化、テーマに相応しい研究デザインの構築、適切な研究方法を検討、選定できる能力を培う。				

	主指導教員から、文献の選定、精読、プレゼンテーション、グループワーク等の展開を通し、次の学修計画に基づき論文作成に必要な研究能力の修得を図り、教授する。 1. 健康増進支援特別演習Ⅰで設定した研究テーマに関連する文献の継続的な選定、精読から、最新の研究動向を把握し、研究テーマの深化を図る。 2. 研究テーマに対応した適切な研究デザイン、研究方法、研究対象・フィールドを検証するとともに、研究遂行に求められる倫理的配慮と手続きについて教授する。 3. 修士論文作成のための研究遂行の具体的計画を策定する。 4. 研究テーマ、目的、想定される成果を含め、修士論文作成のための研究計画に関わる発表会の準備を行う。
--	--

授業科目	健康増進支援特別研究		担当教員	研究指導教員 (近藤 明代、金高 有里、板垣 康治、 津久井 隆行、百々瀬 いづみ)	
英文科目名	Research in Support Science of Health Promotion				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC203	専門科目群 健康増進支援領域	2 年次・通年	選択必修	実習	12 単位
研究科ディプロマ・ ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
			○	○	○
授業目的	地域に暮らす生活者を主な対象とし、健康増進支援領域における関心ある課題に焦点を当てて設定した研究テーマについて、策定した研究計画に基づき、適切な研究方法を用いて研究を行う。倫理審査、調査、データ整理、分析、考察等の一連の研究過程を通し、学位論文を作成する。				
到達目標	1. 健康増進支援領域において自から関心ある研究課題を設定し、適切な方法論を用いた研究計画に基づき研究を遂行できる。 2. 倫理審査の手続きを行い、対象者への倫理的な配慮の元に研究を遂行できる。 3. 研究計画に基づきデータを収集し、分析できる。 4. 研究結果を明確に記述でき、関連する文献を活用して考察できる。 5. 研究成果を学位論文としてまとめ、発表することができる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・評価割合	研究計画・プロセス（10%）、研究成果・最終試験（口頭試問）（80%）、研究発表（10%）				
評価基準・観点	1) 研究計画・プロセス：研究方法、倫理的配慮の適切性、研究計画に準じた研究のプロセス 2) 研究成果・最終試験（口頭試問）：学位論文の審査基準、最終試験の評価基準 3) 研究発表：資料の完成度、発表姿勢				
履修上の留意事項	1. 学位論文作成のための取組を継続的に行うことが重要である。 2. 研究テーマに関連する文献の精読に努め、理論と研究方法の両面を深化させるように努める。				
学修方法	主指導教員から研究指導の基本計画に基づき、以下のとおり教授する。 1. 健康増進支援領域において自ら関心ある研究テーマについて協議、決定 2. 研究テーマに関わる先行研究の整理、仮説の設定 3. 研究方法の検討、文献の検索、選定、精読、 4. 研究倫理ガイドラインに基づく倫理的な配慮の手続きの実行 5. 学位論文研究計画書の作成、提出、公表 6. 研究の遂行、データ収集及び解析、関連文献調査 7. 研究経過に関わる中間報告の実施 8. 学位論文の作成、提出 9. 学位論文の発表				

授業科目	健康再生支援学特論		担当教員	○服部 ユカリ、川口 美喜子	
英文科目名	Seminar in Support Science of Health Recovery				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC301	専門科目群 健康再生支援領域	1 年次・前期	選択必修	講義	2 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
	○	○			

授業目的	超高齢化社会に突入した現在、高齢化に伴う心身機能の低下、認知症等を有する高齢者の尊厳と自立した生活の維持・向上を図るための支援が重要となっている。本科目では、看護実践と栄養実践の基軸となる健康・生活・栄養を焦点に、看護学の視点からは高齢者の心身の健康問題と生活の再生のための支援の基盤となる高齢者の身体的・心理精神的・社会的特徴、高齢者に特化したアセスメント、健康生活への支援について、栄養学の視点からは高齢者の栄養学的問題と専門的支援方法について教授する。具体的には、高齢者に関する諸理論をもとに障害や疾患を有する高齢者のアセスメント方法、健康問題の特徴、高齢者と家族介護者支援、社会生活を維持するための機能向上や再適応等に関する看護支援方法と看護過程の展開、高齢者の栄養・食生活の問題と心身の影響要因について教授する。また、在宅療養者のための社会資源や地域包括ケアシステムおよび訪問看護ステーションや栄養ケアステーションの役割について教授し、看護・栄養の自他職種間および事業所間の連携・協働のあり方と課題について検討する。 人口減少、少子高齢化が進展する日本において、医療のあり方は、治すことが中心の医療から、治し支える生活支援型の医療へと転換している。予防の取り組み強化や健康寿命の延伸そして障害や疾患、栄養不良やサルコペニア、認知症に対する包括的なケアを行う生活支援型医療には病院と介護施設、在宅医療を切れ目なく繋ぐ地域と病院の関りが重要である。医療と介護を切れ目なく人々や患者を支えるためには、生活の基本となる栄養アセスメントと身体的・心理精神的・社会的統合体としての生活支援を修得した栄養と看護の専門職の相互理解と連携が必要である。本科目では、栄養は身体的・心理・社会的統合体である人間（全人的生活体）の理解を深めたうえでの予防、病態と栄養代謝や機能に対応した栄養アセスメント法と食の支援を修得し、看護は看護過程にライフステージと病態における栄養状態の評価方法と栄養管理を理解し、人々の QOL 向上を目指した食環境、食生活の支援を修得する。栄養と看護の役割を理解し、人々の切れ目のない生活支援のために栄養と看護の連携・協働のあり方と課題を検討する。
------	---

到達目標	1. 我が国の高齢者に関連する課題を概観できる 2. 高齢者の身体的特徴・心理精神的特徴・発達課題・社会的位置づけについて説明できる。 3. 高齢者に関連する諸理論を基盤として、障害や疾患を有する高齢者の健康状態のアセスメント方法について説明できる。 4. 老年症候群による身体的問題、精神・心理的問題、家庭・社会的問題が複合した高齢者の多様な問題を理解し、栄養投与方法やその内容を説明できる。 5. 加齢に伴う摂食嚥下状態と栄養代謝機能の低下に伴う慢性疾患や栄養状態の経過を理解し、栄養治療と食事療法について説明できる。 6. 在宅療養者のための社会資源や地域包括ケアシステムおよび訪問看護ステーションや栄養ケアステーションの役割について説明できる。 7. 看護・栄養の自他職種間および事業所間の連携・協働のあり方と課題について考察し、意見を述べるができる。 8. 対象者の健康上の問題や課題を見極める解決法を計画し提供する栄養アセスメントの特徴を理解し説明できる。 9. 栄養と看護の連携・協同も考慮した栄養スクリーニング・評価から栄養計画の立案について説明できる。 10. 医療施設と地域・在宅における栄養について看護の実践に向けての特徴も考慮した連携に視点をもつことを修得し説明できる。 11. 生活習慣病、精神疾患、認知症、がんについて医療と在宅における栄養モニタリング、栄養管理の栄養ケアプロセスを説明できる。 12. 高齢者の疾患と終末期患者に対する栄養について看護との連携・協同も考慮した栄養支援の視点について修得し説明できる。 13. 認知症の病態と症状の特徴および認知症による食事関連動作の障害と栄養障害を含む生活障害について説明できる。 14. 認知症がある人とその介護家族が社会に再適応するための支援と地域との共生について説明できる。
------	--

	15. 医療・介護・地域を繋ぎ、地域包括ケア・地域共生社会における栄養アセスメントと看護実践も考慮した連携・協働を説明できる。
テキスト	中島紀恵子他監修「認知症の人びとの看護、第3版、2017」（医歯薬出版）
参考書	E.H. エリクソン他著、村瀬 孝雄（訳）「ライフサイクル、その完結、2001」（みすず書房） コルカバ著、太田喜久子訳「コンフォート理論—理論の開発過程と実践への適用、2008」（医学書院） トーンスタム著、富沢公子訳「老年の超越—歳を重ねる幸福感の世界、2017」（晃洋書房） 山田実「イラストでわかる高齢者の生活機能支援、2017」（文光堂） 高山忠夫監修「いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学、2014」（北大路書房） 秋下雅弘監修「高齢者の患者学“治す”医療から“治し支える”医療へ、2020」（アドスリー） 館村卓「摂食嚥下障害のキュアとケア、第2版、2017」（医歯薬出版） 亀井智子編「認知症高齢者のチーム医療と看護、2017」（中央法規出版） 笥裕介「認知症世界の歩き方、2021」（ライツ社） 2002-2005 ケアと環境研究会「認知症高齢者への環境支援のための指針 PEAP 日本版3」 寺本房子、前田佳予子他編著「演習で学べる 在宅栄養支援、2020」（建帛社） 小西敏郎、森本修三、小城明子編集「高齢者がん治療エビデンス&プラクティス、2018」（南江堂） 川口美喜子他「がん専任栄養士が患者さんの声を聞いてつくった73の食事レシピ 看護ワンテーマBOOK 2011」（医学書院）
評価方法・評価割合	担当教員ごとの評価の割合を記載してください。 服部（50％）：課題発表（30％）、討議への参加（10％）、レポート（10％） 川口（50％）：課題発表（30％）、討議への参加（10％）、レポート（10％）
評価基準・観点	提出物：毎回の課題の提出状況および内容 課題発表：発表用資料の構成・内容の具体性、発表内容・発表姿勢、質疑応答の内容 討議への参加：ディスカッションへの参加状況等 レポート：川口：「高齢者のがん終末期の栄養療法」についてがん病態と加齢に伴う影響、およびの食に対する意思決定支援など総合的な評価と実践に向けての視野をもちまとめる 服部：「健康再生支援に関する栄養学的アプローチと看護学的アプローチの特徴と共通点について」 評価：テーマと記述内容の一貫性、全体の論理性、文章表現、私見の具体性等を評価 ＊評価基準の詳細はガイダンス時に提示する
履修上の留意事項	主題について事前に学修したことを発表し、討論します。また主題について解説し、学修を深めます。 服部：原則として対面授業だが、場合によっては遠隔授業を行う 川口：原則として対面授業だが、場合によっては遠隔授業を行う

回数	担当		
1	服部	学習の主題	日本における高齢者に関連する課題の概要を理解する
		授業内容	日本の少子高齢化に伴う社会の中の高齢者の役割および保健福祉制度について修得する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：高齢者に関連する課題について参考書や資料を用いて予習する（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
2	服部	学習の主題	高齢者の身体的・心理的特徴・発達課題、社会的位置づけについて理解する
		授業内容	加齢に伴う身体的・心理的变化の概要を修得し、社会における高齢者の位置づけの変遷について考察する
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：加齢に伴う身体的・心理的变化について参考書や資料を用いて予習し、発表の準備をする（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）

3	服部	学習の主題	高齢者に関連する諸理論について理解する
		授業内容	サクセスフルエイジング、ウエルビーイング、エンパワメント、ストレングス理論、コンフォート理論など的高齢者に関連する理論の概要を修得する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：各種理論について参考書や資料を用いて予習し、いずれかの理論を発表できるようにする（2時間） 事後：授業内容を整理し記録する（1時間）
4	服部	学習の主題	高齢者の健康に関するアセスメントを理解する
		授業内容	日常生活自立度判定基準、基本チェックリスト、CGA、BADL 評価法（BI、FIM 他）、IADL 評価法（老研式活動能力指標他）、認知機能評価法（HDS-R、MMSE 他）、について活用できるようにする。
		授業形態	遠隔授業
		事前・事後学習	事前：各種評価指標についてテキストや資料を用いて予習する（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
5	服部	学習の主題	高齢者の食事動作とポジショニングについて理解する
		授業内容	高齢者が食事を快適に摂取できるためのポジショニングおよび安全な食事のための介助方法を修得する。
		授業形態	遠隔授業
		事前・事後学習	事前：各種評価指標についてテキストや資料を用いて予習する（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
6	服部	学習の主題	認知症の原因疾患と認知症がある人の心理を踏まえたケアを理解する
		授業内容	認知症の原因疾患とそれぞれの病態の特徴および認知症がある人の心理・精神的特徴を理解し、認知症当事者のニーズをアセスメントする方法を修得する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：認知症についてテキストや参考書・資料を用いて予習する（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
7	服部	学習の主題	認知症がある人の生活障害と社会での共生について理解する
		授業内容	認知症がある人の生活障害を理解し、社会に適応するための方法および支援について学修し、家族介護者を含めた支援の方法や地域での共生について考察する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：認知症の生活障害と共生についてテキストや資料を用いて予習する（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
8	川口	学習の主題	高齢者の特徴と栄養アセスメント法を理解する。
		授業内容	老年症候群の症状・徴候を理解して高齢者の栄養アセスメント方法と栄養評価について学修する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：高齢者の特徴について、これまでの講義を復習する。（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する。（2時間）
9	川口	学習の主題	高齢者の慢性疾患（内分泌機能、腎機能、心機能）の特徴と栄養管理について理解する。
		授業内容	高齢者の慢性疾患（内分泌機能、腎機能、心機能）の特徴を理解し、栄養評価と栄養管理を修得する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：各種評価指標について予習する。（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する。（2時間）
10	川口	学習の主題	高齢者の慢性疾患（低栄養・サルコペニア）の栄養評価と栄養管理を理解する。
		授業内容	高齢者の慢性疾患（低栄養・サルコペニア）の特徴を理解し、栄養管理について修得する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：各種評価指標について予習する。（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する。（2時間）

11	川口	学習の主題	認知症高齢者における食の特徴と口腔・摂食嚥下機能を理解する。
		授業内容	認知症高齢者における食の特徴と口腔・摂食嚥下機能を理解し、食事・栄養支援について修得する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：各種評価指標について予習する（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
12	川口	学習の主題	高齢者がんの病期における栄養療法について理解する。
		授業内容	高齢者がんの病期における栄養状態、栄養療法による栄養管理プロセスを修得する。事例検討を行う。
		授業形態	遠隔授業
		事前・事後学習	事前：各種評価指標について予習する（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）
13	川口	学習の主題	高齢者の終末期・緩和ケア（がんと非がん）の栄養・食事と意思決定支援に基づく栄養療法を理解する。
		授業内容	高齢者の終末期・緩和ケア（がんと非がん）の栄養・食事状態と意思決定支援を理解した栄養療法を修得する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：各種評価指標について予習する。（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する。（2時間）
14	川口	学習の主題	医療機関から施設、在宅医療に繋ぐ栄養情報伝達と地域・多職種連携について理解する。
		授業内容	入院医療から施設、在宅医療に繋ぐ栄養情報伝達と地域・多職種連携を修得する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：各種評価指標について予習する。（1時間） 事後：授業内容を整理し記録する。（2時間）
15	川口・服部	学習の主題	高齢者の健康回復や生活再生のための看護職と管理栄養士の連携・協働について理解を深める。
		授業内容	地域包括ケアを指向して看護職と管理栄養士が高齢者の健康回復と生活の再生や自立を支援するための問題意識の共有、支援や連携・協働のあり方・課題についてディスカッションし、検討する。
		授業形態	対面授業
		事前・事後学習	事前：講義を踏まえ、高齢者の健康回復や生活再生のための看護職と管理栄養士の問題意識の共有、支援や連携・協働のあり方・課題について整理し発表の準備をする（1時間）。 事後：授業内容を整理し記録する（2時間）。

授業科目	健康再生支援特別演習		担当教員	研究指導教員 (服部 ユカリ、藤井 瑞恵、 川口 美喜子、大日向 輝美、 首藤 英里香)	
英文科目名	Practicum in Support Science of Health Recovery				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC302	専門科目群 健康再生支援領域	1 年次・通年	選択必修	演習	6 単位
研究科ディプロマ・ ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
			○	○	○
授業目的	健康再生支援領域の専門科目の学修内容を深化させるとともに、健康回復や増悪防止を目的とする保健医療の視野から、健康障害をもつ人々の健康回復と生活の再生の支援および専門職教育に係る関心ある課題について、看護学あるいは栄養学に焦点を当て、保健医療系の文献の選定、精読、内容の検討、グループワーク、討議、プレゼンテーション、フィールドワーク等を通して研究テーマを明確化し、設定する。 健康再生支援領域で設定した研究テーマに関して、最新の研究の動向把握と研究の深化に必要な継続的文献検索と精読、プレゼンテーション、討議等の展開を通して、課題解決と論文作成に求められる研究能力を培う。また、倫理的配慮、適切な研究方法の選択を踏まえて研究計画を策定し、発表会の準備を行う。				
到達目標	1. 健康再生支援領域における課題を把握し、再生支援のあり方を探究できる。 2. 健康の回復と生活の再生支援に係る課題・事例に関連する文献を選定できる。 3. 選定した文献を精読し、論点について明確に述べることができる。 4. 自ら取り組む研究テーマの明確化し、説明できる。 5. 研究テーマに適した研究デザインを構築し、適した研究方法を選択できる。 6. 健康再生支援領域で自ら設定した研究テーマに係る最新の研究の動向を説明できる。 7. 自ら設定した研究テーマについて、専門分野における意義と目的を説明できる。 8. 領域に係る課題の解決と研究の深化に必要な文献を選定できる。 9. 文献の精読を通し、論点を整理し、論理的に説明できる。 10. 修士論文作成のための研究遂行に求められる研究倫理ガイドラインを厳守し、倫理的な配慮を行うことができる。 11. 適切な対象の選定、研究方法を踏まえた研究計画を策定できる。 12. 修士論文作成のための研究のテーマ、目的、期待される成果の一貫性について、明解に説明できる				
テキスト	なし				
参考書	授業内で適宜紹介する				
評価方法・評価割合	ディスカッション（20%）、プレゼンテーション（30%）、研究計画書（50%）				
評価基準・観点	1) ディスカッション：研究テーマに関連した課題に係わるディスカッションにおける、参加姿勢、発言の論点、内容の論理性、私見の展開等 2) プレゼンテーション：研究テーマに関連した課題に係わるプレゼンテーションにおける、発表資料の構成内容の完成度、発表姿勢等 3) 研究計画書：研究倫理ガイドラインを厳守した倫理的な配慮、適切な研究方法、研究テーマ、目的、成果の一貫性				
履修上の留意事項	1. 健康再生支援領域における自身の関心を意識して、積極的に課題や事例の情報収集に努め、研究計画の立案に繋げる。 2. 主体的にディスカッションに臨む。				
学修方法	主指導教員から、文献の選定、精読、プレゼンテーション、グループワーク等の展開を通し、次の学修計画に基づき論文作成に必要な研究能力の修得を図り、教授する。 1. 健康再生支援領域において、学生自身が関心をもつ研究テーマに関連した文献の選定、精読を進める。 2. プレゼンテーションやディスカッションを通して、とくに地域に暮らす人々の健康再生支援の現状と課題について理解を深める。 3. グループワーク等を通して専門科目群での学修内容を深化させ、看護職・管理栄養士の視点からの科学的根拠に基づく支援のあり方について理解を深める。 4. 本演習の学修を通して自ら取り組む研究テーマの意義を検証し、研究テーマの明確化、テーマに相応しい研究デザインの構築、適切な研究方法を検討、選定できる能力を培う。 5. 健康再生支援特別演習Ⅰで設定した研究テーマに関連する文献の継続的な選定、精読から、最新の研究動向を把握し、研究テーマの深化を図る。				

	6. 研究テーマに対応した適切な研究デザイン、研究方法、研究対象・フィールドを検証するとともに、研究遂行に求められる倫理的配慮と手続きについて教授する。 7. 修士論文作成のための研究遂行の具体的計画を策定する。 8. 研究テーマ、目的、想定される成果を含め、修士論文作成のための研究計画に関わる発表会の準備を行う。
--	--

授業科目	健康再生支援特別研究		担当教員	研究指導教員 (服部 ユカリ、藤井 瑞恵、 川口 美喜子、大日向 輝美、 首藤 英里香)	
英文科目名	Research in Support Science of Health Recovery				
ナンバリング	科目区分	年次・学期	選択/必修	講義形態	単位数
GMC303	専門科目群 健康再生支援領域	2 年次・通年	選択必修	実習	12 単位
研究科ディプロマ・ポリシー	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
			○	○	○
授業目的	医療福祉施設や在宅において病気療養中の人々の健康状態の回復、健康生活の再生のための看護支援、栄養管理や食生活支援等における関心ある課題に焦点を当てて設定した研究テーマについて、策定した研究計画に基づき、適切な研究方法を用いて研究を行う。倫理審査、調査、データ整理、分析、考察等の一連の研究過程を通し、学位論文を作成する。				
到達目標	1. 健康再生支援領域において自から関心ある研究課題を設定し、適切な方法論を用いた研究計画を作成できる。 2. 倫理審査の手続きを行い、対象者への倫理的な配慮の元に研究を遂行できる。 3. 研究計画に基づきデータを収集し、分析できる。 4. 研究結果を明確かつ論理的に記述でき、関連する文献を活用して考察できる。 5. 研究の成果を学位論文としてまとめ、発表することができる。				
テキスト	なし				
参考書	適宜紹介する				
評価方法・評価割合	研究計画・プロセス（10%）、研究成果・最終試験（口頭試問）（80%）、研究発表（10%）				
評価基準・観点	1) 研究計画・プロセス：研究方法、倫理的配慮の適切性、研究計画に準じた研究のプロセス 2) 研究成果・最終試験（口頭試問）：学位論文の審査基準、最終試験の評価基準 3) 研究発表：資料の完成度、発表姿勢、質問への対応				
履修上の留意事項	1. 学位論文作成のための取組を継続的に行うことが重要である。 2. 研究テーマに関連する文献の精読に努め、理論と研究方法の両面を深化させるように努める。 3. 論理的で一貫性のある論文を作成する。				
学修方法	主指導教員から研究指導の基本計画に基づき、以下のとおり教授する。 1. 健康再生支援領域において自ら関心ある研究テーマについて協議、決定 2. 研究テーマに関わる先行研究の整理、仮説の設定 3. 研究方法の検討、文献の検索、選定、精読、 4. 研究倫理ガイドラインに基づく倫理的な配慮の手続きの実行 5. 学位論文研究計画書の作成、提出、公表 6. 研究の遂行、データ収集及び解析、関連文献調査 7. 研究経過に関わる中間報告の実施 8. 学位論文の作成、提出 9. 学位論文の発表				